



2005年 世界オリエンテーリング選手権 日本代表チーム報告書

2005年8月7日～14日，愛知，日本



(社) 日本オリエンテーリング協会
強化委員会・WOC2005日本代表チーム



SUUNTO 商品セール販売のおしらせ

SALE

どこよりも安い!

★スント商品オール 10~30%OFF★

SUUNTO T6

¥72,000 → ¥51,000



おすすめ!

時計、高度計、気圧、温度計、心拍計、トレーニングツール、PCインターフェイス。トレーニング中の体内の動きを正確に計測分析。身体に無理なく効果を最大限に引き出すトレーニングツール、付属のPCソフトを使えば、t6に記録されたデータをEPOC等、様々な指標で表示。自分にあった最大限の効果が得られるトレーニングツール

★同高度に居るときに気圧が変化しても高度表示が変わらない気象モード搭載。



時計、クロノグラフ、高度計、気圧、温度計、コンパス機能。アウトドアスポーツに必要な全ての機能を搭載。

デザイン性に富んだイエロー、ブラック、ブルーの3色

SUUNTO Vector

¥32,000 → ¥28,800

日本代表もリストコンピュータで心拍トレーニングを実践中!



WOC2005日本代表
高橋 善徳

トレーニング効果の向上、効率化のために、スントのt6を使って、心拍トレーニングに取り組んでいる高橋選手の話

「愛知の世界選手権に向けて、トレーニング効果を効率良く引き出すために、t6を春から使いはじめました。心拍数の変化を簡単にビジュアルに捉えられるため、トレーニング強度を最大限に引き上げることができ、自分が強くなれたと実感しています。」



SUUNTO x6HR

¥58,000 → ¥46,800

時計、クロノグラフ、高度計、気圧・温度計、コンパス、心拍計、PCインターフェイス 機能。

*同高度に居るときに気圧が変化しても高度表示が変わらない気象モード搭載。

運動中の心拍数を測定し、パソコンで管理、本格的アスリートのためのトレーニングに適している。付属のPCソフトアクティビティマネージャーで、高度と心拍数をグラフ表示したり、記録、整理が簡単にできます。

WOC2005で日本代表に贈呈されたモデル。使い易いと評判です!



SUUNTO x3HR

時計、クロノグラフ、高度計、気圧・温度計、心拍計機能。心拍数をグラフ表示し、効果の高いトレーニングができる。高度も同時に表示でき、アウトドアトレーニングにも適したベシックモデル

¥24,000 → ¥19,800



SUUNTO x9

¥99,800 → ¥79,800

Suunto X9 時計、クロノグラフ、高度計、気圧・温度計、コンパス、GPS、アクティビティツール、ナビゲーションツール、PCインターフェイス

*同高度に居るときに気圧が変化しても高度表示が変わらない気象モード搭載

GPS機能と3Dコンパス搭載でアウトドアスポーツをより楽しく安全にPCとの連動(付属品のスント・トレック・マネージャーやカシミール3Dなど)により、楽しみの幅は大きく広がります。

SUUNTO コンパス

A-20 A-30
Arrow-20 Arrow-1 Arrow-5

各種 2,000円~9,000円



数量に応じて特価にて販売します。

★問い合わせ先
スント正規販売店
有限会社ジェネシスマッピング
e-mail info@genesysmap.co.jp
tel 03-5928-6051 fax 03-5928-6052



~その他オリエンテーリング
企画運営ご相談ください。~

オリエンテーリングに関する事なら何でも請け賜ります。
★地図調査★各種印刷物作成★オンデマンドプリント、
★運営機材レンタル★EMIT製品レンタル・販売
★地図ビニ販売★誘導テープ販売★ゼッケン用紙販売、
★デザイン/広告/出版物製作その他

2005年世界オリエンテーリング選手権大会

日本代表チーム報告書

(2005年8月7日～14日，愛知，日本)

目 次

大会全日程	3
選手強化委員	4
1. 世界選手権を終えて	
宮川達哉 (日本オリエンテーリング協会 強化委員長)	5
藤井範久 (日本オリエンテーリング協会 強化委員 ゼネラルマネージャー)	6
山岸倫也 (日本オリエンテーリング協会 強化委員 女子コーチ)	7
加賀屋博文 (日本オリエンテーリング協会 強化委員 男子コーチ)	8
鹿島田浩二	9
松澤俊行	10
山口大助	11
高橋善徳	12
篠原岳夫	13
紺野俊介	14
小泉成行	16
田島利佳	17
落合志保子	18
宮内佐季子	19
元木友子	20
番場洋子	21
皆川美紀子	22
2. 大会公式成績	
ミドル競技予選 (8月 7日)	25
ロング競技予選 (8月 8日)	31
スプリント競技予選 (8月 10日)	37
スプリント競技決勝 (8月 10日)	43
ミドル競技決勝 (8月 11日)	45
ロング競技決勝 (8月 12日)	47
リレー競技 (8月 14日)	49
3. 選手強化基金	53
4. 付録	54
サポーターズニュース (Vol.1~Vol.6)	
Ganbare! (Vol.1)	

大会全日程

	WOCスケジュール	出場選手
8月7日(日)	ミドルディスタンス予選 菅沼 1:10000	鹿島田浩二, 高橋善徳, 紺野俊介 田島利佳, 落合志保子, 番場洋子
8月8日(月)	ロングディスタンス予選 菅沼・守義 1:15000	松澤俊行, 高橋善徳, 篠原岳夫 宮内佐季子, 元木友子, 番場洋子
8月9日(火)	休養日	
8月10日(水)	スプリント予選 昭和の森 1:5000	松澤俊行, 山口大助, 小泉成行 田島利佳, 宮内佐季子, 皆川美紀子
	スプリント決勝 昭和の森 1:5000	山口大助 田島利佳, 宮内佐季子, 皆川美紀子
	開会式	
8月11日(木)	ミドルディスタンス決勝 三河高原牧場 1:10000	高橋善徳, 紺野俊介 落合志保子, 番場洋子
8月12日(金)	ロングディスタンス決勝 巴山 1:15000	宮内佐季子, 元木友子
8月13日(土)	休養日(クラブカップリレー)	
8月14日(日)	リレー 作手高原 1:10000	1 山口大助, 2 高橋善徳, 3 松澤俊行 1 宮内佐季子, 2 番場洋子, 3 元木友子

選手強化委員

- 宮川 達哉(委員長)
- 有吉 正博
- 加賀 屋博文
- 小林 岳人
- 田島 三子男
- 高野 由紀
- 藤井 範久
- 山岸 倫也

強化スタッフ(企画担当)

- 宮川 達哉(強化委員会委員長)
- 小林 岳人(強化委員会委員)
- 藤井 範久(強化委員会委員)
- 加賀屋 博文(男子チームコーチ, 強化委員会委員)
- 山岸 倫也(女子チームコーチ, 強化委員会委員)
- 尾上 秀雄(ジュニアチームコーチ)
- 村越 真(アドバイザー)

強化スタッフ

- 石井 龍男(トレーニングコーチ)
- 鈴木 康史(アシスタントコーチ)
- 富田 吉郎(アシスタントコーチ)
- 三好 暢子(アシスタントコーチ)
- 齋藤 和助(会計, 税理士)
- 小林 達郎(ドクター)
- 樋口 一志(ドクター)
- 竹内 亜希子(管理栄養士)
- 吉田 勉(トレーナー, 理学療法士)
- 宮本 知江子(トレーナー, 鍼灸・マッサージ師)
- 鈴木 英一(トレーナー, 鍼灸・マッサージ師)
- 鈴木 陽介(薬剤師)
- Jari Ikaheimonen(アドバイザー)

1. 世界選手権を終えて

世界選手権、日本開催を終えて

日本オリエンテーリング協会
強化委員長 宮川達哉



2000年8月世界選手権大会の日本開催が決まった。この決定を日本に伝えるシンポジウムにおいて、誘致した愛知県オリエンテーリング協会から、日本チームの活躍を誘致した理由のひとつとして大きな期待を受けた。

日本人のWOCへの挑戦の歴史は、1976年に始まる。その後1983年からSQUADによる組織的な派遣を継続していたが、その結果は決して褒められたものではなかった。2000年静岡でのワールドカップや2001年秋田でワールドゲームズが開催された際、日本チームの姿は、事情を知らない多くの日本人を落胆させた。

われわれは、世界との差を常日頃から身にしみていたので、あまり深く悩まなかったが、JOAの小野前会長から浴びせられた言葉は容赦がなかった。「開催国が活躍しなければ世界大会誘致の意味がない。何が何でもメダル！できなければ入賞！少なくとも北欧諸国と対等に戦えないなら、開催を返上しなさい！」これが自国チームを応援する日本人オリエントニアの期待なのだと感じた。私は、その期待に答えるべく決意を新たにしました。

あれから4年、いろいろなことがあった。自分でもできる限りの努力をしたが、それには比べものにならないくらい多くの人の協力をいただいた。

そして今、ひとつの結果が出た。

われわれの戦いの姿を、多くの日本人オリエントニアはどのように感じてくれただろうか。メダルや入賞こそなかったが、「対等に戦った」と見てくれただろうか。大会を開催してくださった方々の期待に答えられただろうか。

私としては、選手を褒めてやりたいと思う。

.....

今回の世界選手権に向けて、本当に多くの方のご協力をいただきました。チームを代表して、厚く御礼申し上げます。本小冊子では、狭いスペースゆえ、ひとつひとつのご協力に満足にお答えできないこととお詫び申し上げます。これは、われわれの出した結果を中心とした簡単な報告であり、われわれがここに至ったプロセスや、多くの方々のご協力については、後の詳細な報告書にまとめておりますので、そちらの方も、よろしくお願いたします。

(2005年8月記)

世界選手権大会を終えて



日本オリエンテーリング協会
選手強化委員 ゼネラルマネージャー 藤井範久

1995年の世界選手権大会（ドイツ・リッペ）の報告書の最後に次のような文章を書いた。「……本来、ここでは今回の世界選手権大会の総括を行うべきなのですが、最後に個人的な夢を。しかし決して夢に終わらせたくない夢を。『2005年、日本で世界選手権大会、表彰台に日本選手が…』。これからも日本チームへのご声援をよろしくお願ひいたします」。日本チームのジェネラルマネージャーとして参加した大会の報告書である。なぜ2005年にしたのかは記憶にないが、たぶん10年後という単純な理由だったのだろう。

それから10年、世界選手権大会の日本開催が現実のものとなった。僕の努力は0%ですが、夢の半分は実現したことになる。残りの半分の夢の実現には、日本オリエンテーリング協会（JOA）としての活動が不可欠であった。そのような時、当時の小野会長から「2005年にわが国で開催するオリエンテーリング世界選手権大会に世界の選手と対等に競える選手を養成する件」に関する諮問文（平成14年5月18日付）が選手強化特別委員会（現在の強化委員会）に出された。それまでのJOAからは予想できない諮問文である。「さすがオリンピックメダリスト！！」として歓迎した。その後、スイス、スウェーデンの世界選手権大会と、夢を見続けてきた。

話を昔に戻してしまうが、1989年、スウェーデン・スカラボリでの世界選手権大会に日本チームに初めて帯同して以来、スタッフとしてチームに帯同し続けてきた。その間、日本代表チームの実力は確実に上がってきたものの、村越、木植の両エースを越える成績を残すことができなかった。そして、世界選手権大会の日本開催決定を機にJOAが強化特別委員会を設置し、さらに外国人コーチの招聘など選手強化を積極的に行ってきた。その成果として、一昨年のスイス大会では日本人過去最高順位の23位、昨年のスウェーデン大会ではスプリントで2名の予選通過。さらに今回、のべ10名の予選通過という結果を残すことができた。さらにミドル決勝での番場の27位は評価できるし（予選&決勝方式では過去最高）、男子リレー1走での8位は快挙とあっていいだろう。選手強化が実を結んだとあっていいだろう。そして、その影には組織としてではなく、多くの、本当に多くの個人の努力やボランティア的活動があったことも忘れてはならない。感謝。

ただし喜んでばかりもいられない。日本チームが目標としてきた個人戦20位以内、リレー6位入賞は今後のお預けになったことは残念で仕方がない。まあ、そう簡単に目標が達成できないからこそチャレンジする価値があるのですがね。そして、夢も見続けることができるし……

最後になりましたが、日本チームを資金面・精神面でサポートしていただいた皆様、世界選手権大会のスタッフ・ボランティアの皆様、日本チームメンバー、本当にありがとうございました。そして、夢の実現に向けて日本チームの挑戦はまだ続きます。

世界選手権大会を終えて



選手強化委員 女子コーチ 山岸倫也

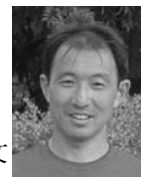
ここ数年間の大目標であった世界選手権大会が終了した。女子チームの成績を総括すれば、個人種目はミドル2名、ロング2名、スプリント3名が決勝に進出し、決勝ではミドル27位、ロング32位、そしてリレーでは11位という好成績を得た。また、女子は代表チームの6名全員が、何らかの種目で決勝を走ることができた。選手たちには、全員が決勝進出できる可能性があることを伝えてきたから、毎日のレースの成績には驚きはなかったが、後から振り返ってみると、「すごいね」というのが正直な感想である。

女子の選手層は、トップの30名は充実しているが、その下の決勝進出ラインの選手たちの層は男子と比べて厚いとは言いがたい。ほんの僅かのブレイクスルーで、選手たちは決勝に進出することができるはずだ。われわれを後押しする要因は、遠隔地開催による参加者の減少、地元テレインに対する十分な準備、暑い日本の夏への対策など、あげればきりがない。しかし、最終的にはそれらの要因を選手が味方につけることができるかどうかにかかっていた。最初の予選種目であるミドルで、番場と落合がいつものように走れば予選は通過できることを実証してくれたのは大きかった。そして、女子よりも苦戦すると予想されていた男子も2名が決勝進出。チームの歯車がうまく噛み合せて動き始め、わずか1週間の間に選手一人ひとりが確実に強くなっているを実感できた。

もちろん課題はある。本当に世界で認められるためには個人種目で10位以内、6位入賞を現実のものとする必要があるし、もともとわれわれの当初の公式目標はそのレベルに掲げられていたはずだ。また、個人種目だけをみても6日間に3種目の予選決勝6レースをこなすタフな競技日程に対応できていなかったもの事実である。そして、今回のパフォーマンスを海外の世界選手権やワールドカップで再現できるかどうか、直近の大きな課題になるだろう。幸いなことに今後数年間の主要な国際レースはデンマーク、ウクライナ、チェコ、ハンガリーなど大陸諸国で開催される機会が多い。これもわれわれの成長を後押しする大きな要因であると受け止めておきたい。

最後に、多くの時間をハードなトレーニングに割き、自分たちを成長させ続けてくれた選手たち、テクニカルコーチしてスキルと情報、競技に対する姿勢を示してくれたイーキス、選手たちの活動を直接サポートしてくれた強化スタッフの方々、選手たちの活動にさまざまな便宜をはかり、ご支援を頂いた都道府県協会およびクラブの方々に深く感謝いたします。

世界選手権を終えて



選手強化委員 男子コーチ 加賀屋博文

地元愛知での世界選手権，男子チームのハイライトはリレーであった。1走山口がトップと2分差の8位でタッチし，2走高橋も集団の中で競い合い，最終的に3走松澤は17位でフィニッシュとなってしまったものの，3走まで競い合いの展開に持ち込むことができた。ようやくリレーというゲームに日本が参加できたといえる。山口はチームで一番の走力はあるが，山の中でのスピードはチーム内でも特別速いというわけではない。それでも最後までトップ集団に喰らいつけたことで，日本人がフィジカル面において太刀打ちできないことはないことを証明してくれた。単純に走る区間での走力をもう少し向上させることができれば，これからも日本はリレーで戦い続けられるはずである。

もちろん課題は多くある。予選通過者が3名，決勝最高39位，リレー17位，という結果は地元というアドバンテージを考えると正直厳しい。より多くの選手に予選通過のチャンスはあったが，それを生かしきれなかった。ベストパフォーマンスを発揮するためのコンディショニングとメンタルの強さがまだ不足していた。しかし全員が予選通過を現実のものとして臨み，決勝を走った選手は，決勝で結果を残すために走った。それはやはり大きな進歩といえるだろう。

ここ数年のチームの体制は大きくは変化した。イーキスというテクニカルコーチの存在，複数人の献身的なトレーナー，選手は自分たちが世界に挑戦するアスリートであり，選ばれた存在であるという自覚を得られたのではないだろうか。そのような体制や意識の改革が，今回の世界選手権でもっとも大きな収穫である。

しかし，本当の勝負はこれからである。今回の成績が地元開催による一過性のものに終わってしまうのか，それとも地元開催をステップにしてさらに上へレベルアップできるのか。多くの選手が来年も挑戦することを表明している。それに新たな選手が加わり，高いレベルで競い合うことができれば，日本は後者となりえるだろう。今回の世界選手権を目の当たりにした多くの選手が，真剣に世界を目指してもらいたい。決して楽な道のりではないが，この上ない充実したパラダイスはもう目の前に迫っているのだから！

最後に，日本代表選手を支援してくれた多くの方，会場で熱い声援を送ってくれた観客，そして最高の舞台を準備してくれた運営者の方に心より感謝したい。さらには，これからも世界を目指し続ける代表選手に対する支援と激励をどうぞよろしくお願ひしたい。

WOC2005 を終えて



鹿島田 浩二

地元日本での世界選手権が決定した2000年の夏、ライブニッツからの朗報に思えず身震いしたのを良く思っている。自分が現役の選手として迎えられるチャンスがめぐってこようとは……。30歳を目前に控え、モチベーションにややかげりが見えた時期ではあったが、これこそ今後の競技を続ける上での究極の目標にしようと決心した次第である。

それから5年、環境の変化や、コンディションの波もあった。しかし明確なゴールを持つことの意義は大きい。たとえ波の狭間においても自分の進むべき方向は常にはっきりしていた。真剣に準備をする若い世代の刺激もあったと思う。オリエンテーリングを競技としてより高いレベルで捕らえる選手も明らかに増えていた。なかなか結果には現れなかったが、日本チームは愛知に向けて着実に実力を蓄えていた。

いよいよ世界選手権を目前に控えた7月、5年前に思い描いていたほどには、スーパーな自分ではなかった。冷静に判断すれば数年前と実力的にはそれほど変わっていなかったかもしれない。厳しい競い合いのチームではミドルの枠を辛うじて獲得するに留まった。

しかしこの5年、1日1日を大切にし、出来る限りの準備をしてきたという自負はある。その自分に出来る限りのパフォーマンスをすることこそ、この5年思い描いてきたことだ。

ミドルの予選。レースは思いの外あっさりとしていた。朝が早く、少しだけさわやかな空気であったことを除けば、慣れ親しんだ作手の森でのオリエンテーリングである。悔やまれるミスもあるが、冷静に見れば平均点のレースだったろう。ただ緊張のせいかわ少しだけ体の動きにバランスを欠いていた。

結果は20位でボータとは約2分30秒、ヤリの分析の通り、15位以内に入るチャンスはレースを通じて小さかった。結果の詳細な分析は省略するが、現時点での実力を現す反面、新たな発見も伴う有意義なレースであった。

それに比べると高橋、紺野のレースは素晴らしい。ミスをしながらも通過する力強さを見せてくれた。今まで日本チームがあこがれて来た中堅国の走りだ。彼らや大助の連発する一桁ラップは大いにチームを勇気づけた。もはや我々は世界の中堅国に混じっている。その好感感がリレーにつながったろう。ここ10年超えられなかった一つの壁を越えたことは事実だ。しかしこの先にさらに進むか、あるいはまた戻ってしまうか、その真価は次回以降アウエイでのWOCで問われるだろう。

8月14日のバンケットの日、それぞれ別々の方向からWOCへの長い道りを歩いてきた面々が初めて同じ場に集いゆっくりと話す場である。実行委員会、地図調査、コースセッター、応援団、強化スタッフ…、自分が競技者として走るには、数え切れない人々の準備があるのだと改めて感じた。とても言葉でお礼を言い尽くせるようなものではないが、いつか自分も同じように次の世代が走る舞台を作れたらと感じた。

そして、もう一つ、今回のWOCチームは本当に良いチームであったと思う。合宿での準備から代表選考を経て、最後のWOCウィークまで迎えられたことはとても幸いだった。人生は一期一会、このメンバーで迎えるWOCは二度とないであろうが、このすばらしい経験を与えてくれたチームにも心から感謝したい。

恍惚と憂鬱



松澤 俊行

まず、素晴らしい世界選手権を準備して下さった運営者の皆さん、現地や自宅で応援して下さったオリエンテーリングファンの皆さん、いつも世話をしてくださっている日本チームスタッフの皆さん、そして苦楽を共にしたチームメイトの皆さんに感謝の気持ちを表したいと思います。ありがとうございました。

幸運にも、私は自国での世界選手権に出場できるという贅沢な立場を味わうことができました。海外の記者を相手に記者会見に出席させてもらえたり、開会式で選手宣誓を任せていただいたりという貴重な経験も得られました。これで、競技成績が伴えば言うことはなかったのですが……

個人戦2種目では予選不通過、リレーでは日本男子チームとして過去最高成績を狙える位置でタッチを受けながら順位後退。良い流れにあったチームの空気に乗ることができず、大会後は正直自分自身に失望しました。ただ、そうした感情を引きずっていても良い影響はないので「次」に向けて気持ちを切り替えなければなりません。

「この世界選手権でどんな結果が待っているか分からないが、後から考えて必ず『意味があった』といえることが起こるだろう」。大会前、不安な時に気持ちを鎮めるためにこのように自分に言い聞かせていました。間違った考え方ではないはずですが。「松澤がここまでの選手になるには、地元の世界選手権での屈辱が必要だったのかもしれない」と、何年か後に言われることを信じてこれから先の苦しい局面も乗り切っていきたいと考えています。

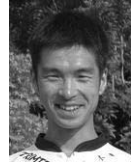
皆さんにも、その「信じていた日」を私と一緒に迎えていただければ嬉しく思います。今後もご注目いただきますよう、よろしくお願いたします。



**ロング予選ビジュアルを通過する松澤選手
スプリント予選を走り終えた松澤選手（上）**
2002年より愛知に活動の拠点を移し、世界選手権に向けて最善の準備をしてきた。地元選手としてのプレッシャーの中の力強い走りであった。

ミドル予選を走る鹿島田選手（左下）
惜しくも決勝の舞台を走ることはできなかったが、地元日本での世界選手権で最大限自分の実力を発揮した走りを見せた。

世界選手権報告書



山口 大助

世界選手権が終わって1週間がたち、この文章を書いています。たった1週間前のことなのに大会のことが本当に昔のこのように感じられます。2000年に2005年の愛知での世界選手権開催が決まってから、選手としてこの大会を走るのだという思いをずっと持ち続けてトレーニングを続けてきました。そして日本チームとしてもこの世界選手権に向けて多くの改革をし、走り続けてきました。

そのひとつフィンランド人コーチのイーキスの招聘は非常に大きなポイントでした。イーキスは招聘当時から、「君は世界のトップ選手と同等の走力を持っている、リレーの1走に向いている。リレーではトップ集団のすぐ後ろくらいで帰ってくることが現実的な目標である。」と話してくれていました。当時はリップサービスだよなと思いながら聞いていた部分もあります。しかしチームの目標であるリレーの入賞に近づくには、1走でトップ集団からあまり離れずに返ってくることは絶対条件といえます。そのためには日本チームの1走は自分が走らなければならない、それ以外に選択肢はないと思い込んでいました。

大会期間中のコンディションの良さを評価され、1走を走らせてもらえることになったのはミドル決勝の日の夜。私には世界選手権等での1走の経験がありませんでしたが、昨年11月のトレーニングキャンプでのリレー、6月のイギリスチームとのマススタートトレーニングで他国の選手と一緒に走る機会があり、多少の自信をもってリレーに臨むことができました。

当日朝はさすがに緊張し、体もあまり動かない感じでした。しかし、スタート直前には不思議とリラックスすることができ、スタート直後はイーキスの指示通り慎重にコントロールを取り、集中してレースを進めることができました。3番コントロールまではほぼ全チームがいるような状態。4番へ向かう最初の山越えあたりから徐々に振り落とされるチームがでてきて、第1ループの終わりには気づいたらトップ集団に入っていました。この段階で自分も世界のトップ選手とフィジカルの強さでは驚くほどの差はないのだと実感できました。

第2ループも中盤に差し掛かってくるとさすがに疲労を感じました。会場から1番遠いコントロールまではトップグループの中でレースをしていましたが、そこからのロングレッグで少し集団から置いていかれ、ルートチョイスをミス。しかし、後ろから来たドイツとスロバキアと共にめげずに進んでいくと、置いていかれたと思っていたスイスの背中をまた見ることができ、そんなには遅れていないことが分かりました。ここで「1走としての役割を果たせそうだ。ここからは余計なタイムロスを避けよう。」と気持ちを切り替え、丁寧にオリエンテーリングを展開。最後の道走りからゴールまでの走りは限界まで追い込み、なんとか8位で善徳につなぐことができました。

男子チームは結果として17位。ほぼ過去の日本チームの最高順位と同等です。これを足がかりに日本チームはもっと上位を狙っていけないのではないかと期待が持てます。

今回のレースの出来は、間違いなく今までで最高のレースでした。このような最高のレースが愛知の世界選手権という場でできたのは、チームをサポートしてくれた方々、そして応援していただいた多くの方々のおかげであると思っております。そしてなによりこの愛知での世界選手権を誘致し、多大な準備時間を割き、大会を成功させてくれた運営者各位の努力があってこそ、これだけの走りのできたのだと思います。選手として走れて本当に幸せでした。ありがとうございました。

可能性を見出した世界選手権



高橋 善徳

2000年の冬に行われた合宿で当時クラシック競技チャンピオンのビョルナーの「こうして競技者として、世界の頂点を目指して競技をやっているのは人生において本当に短い間だけだ。」という言葉に感動し、20代をオリエンテーリングにかけよう！と思いついてから5年、就職や長期海外遠征を経て、集大成であるこの世界選手権を地元日本で代表選手として迎えられたことをうれしく、そして誇らしく感じています。

世界選手権に向けて私は以下のような目標を立てていました。

「ミドル・ロング競技それぞれにおいて、最低でも決勝進出。そして決勝で30位以内」

最低限の目標である決勝進出はミドル競技で達成することが出来ました。決勝においては、大きなミスをして39位という結果でした。この結果に対して、もちろん満足はしていません。ミスをしなければ30位前後という順位が見えているからです。ロング競技においては、最後の最後で痛恨のミスをしてしまい、予選を通過することは出来ませんでした。

リレーについて、素晴らしい走りが出来たと思います。世界選手権の舞台でミス率4.5%の走りが出来ました。体力的に限界の中での、この走りには満足できます。しかし、集団の中での走りをするための走力のなさを痛感していることもまた事実です。1走の山口さんが8位で帰ってきたときは最高に興奮しました！世界のトップ選手の集団の中で走ることが出来たことはすごくいい経験でした。

この世界選手権を通して、私は自分自身そして日本人選手の可能性を強く感じる事が出来ました。私のオリエンテーリングスピードは世界にも通用するものです。予選通過ラインを上回るレベルです。しかし、それを何レースも連続して行うことが出来ないのです。それは、他の選手にも言えることだと思います。

来年も世界選手権を目指します。今度はもう一段階高いレベルでのリベンジをするつもりです。そのために体力面でのベースアップをはかっていくつもりです。来年の今頃は、もう10レベル上の走りをする高橋善徳に是非ご注目下さい。

最後になりましたが、この大会は沢山の役員、地図製作者、ボランティア、メディアそして多くの観客の手によって素晴らしいものとなりました。心からお礼を申し上げます。そして、素晴らしいチームメンバーに恵まれたことを誇りに思います。皆様に少しでも感動と勇気を与えることが出来たならば、それは私にとって最高の賞賛です。どうもありがとうございました。今後とも宜しくお願いします。



ミドル決勝を走る高橋選手（左）

スプリント決勝を走る山口選手（右）

高橋選手は初、山口選手は2度目の決勝の舞台であった。決勝における世界の壁は厚くそれゆえに、得たものも大きかったであろう。世界を肌で感じた彼らの今後の活躍に注目しよう。

世界選手権報告



篠原 岳夫

まず、地元日本での世界選手権に臨むにあたり、本当に多くの方々のご支援、ご協力に感謝します。それと、日本では見たことのないとても素晴らしい大会を運営してくださった皆様にも感謝いたします。さらに、当日会場で大きな声を出して応援してくださった全オリエンティアの皆様にも感謝いたします。本当に皆様ありがとうございました。あの大声援の中で走れたことは今すぐにも思い出せますし、一生忘れることもありません。うれしい限りです。

今回の世界選手権は2度目ということもあり、宿舎に入るときにはかなりリラックスした気持ちでした。4月に就職して、新しい職場に慣れるのは覚悟はしていたけれどもそれよりも大変なものでした。それが世界選手権へ向けての準備に影響があったことは間違いありません。でもしばらくして「もうこういう生活なのだからそれでやっていくしかないじゃん」と開き直ることもできて精神的にも落ち着くことができました。こういうとき能天気な性格は役に立ちますね。何の根拠もなく積極的思考になれる。そんなわけはかなりリラックスして宿舎入りもできロングの予選にも臨むことができました。しかし、レースの日の朝になると急に緊張感が襲ってきてあせりの気持ちが生まれました。やっぱり日本開催の世界選手権だからでしょうか。スタート直後にそんなものはどこかへ飛んでいってしまいました。

レース序盤はなかなかいい滑り出しだったのに半ばにして両足ともつってしまったのは残念でした。せつかくの私の日本での世界選手権が寒いものになってしまいました。そのまま最後まで走ったせいで、その後3日間はトレーニングもできなくなってしまいました。でもそれはすべて自分がやったことですし、だれか他人のせいでそうなったわけでもありません。そういう意味で、悔しいけど仕方がないし、もう起こってしまった過去のことです。それにしても本当にあのすごい大声援はうれしかったし、力になりました。ありがとうございました。幸せでした。

今は、これからまた先のことを見ながら一つ一つ目の前のオリエンテーリングに集中していこうと積極的な気持ちになることができます。



ロング予選ビジュアルを通過する篠原選手（左）

昨年に続き2回目の挑戦であったが、負傷の影響で予選を通過することは出来なかった。満身創痍のレースであった。

軽装で走る選手（右）

暑さに対する対策であろう。外国人選手の中にはランニングパンツで走る選手も見られた。



3 度目世界選手権を終えて



紺野 俊介

いつの頃から目指していた、2005年日本・愛知開催の世界選手権。終わってしまうと、実に呆気ない感じがします。しかしながら、開催期間中は、充実した日々が送れて、非常に楽しいひと時を過ごせたのは間違いない。地元開催ということで、応援が凄かった！今回はこれにつける。私をはじめとして、選手誰もが応援に後押しされ、良い走りができたと思います。

今回の世界選手権は、3年連続3回目の出場。過去2回はロングに出場して、結果はいずれも予選落ち。特に昨年は悲惨で、コントロールに辿り着けず完走すらできず、非常に悔しい思いをした。ゴール後涙する写真が掲載された新聞は、気持ちが途切れそうになった時に見て、この一年頑張ってきました。

昨年のリベンジと思ってロングを目指していた時期もありましたが、普段のトレーニングについては、相変わらず質も量も不足しており、レースでの結果も残せないでいました。ロング出場内定者が決まった時点で、ミドルとスプリントでの出場へと目標をうまくシフトできました。

これまで結果が残せているのは、ショートやリレー、ウイニングが20~40分程度のレースであり、ロングとなると結果はいまいち。ミドルについては、過去2回のWOCで一番出たい種目でもありましたので、本来目指していた種目を目標とすることに戸惑いはありませんでした。7月に実施された最終選考会にて、スプリント代表内定を勝ち取ったわけですが、ミドル選考会では途中棄権という結果に終わり、選考を走り終えた時点では、スプリントのみの出場で気持ちを固めていました。

自分もスプリントよりはミドルが良いと言ったこともありますが、色々とコーチ陣が考えられた結論として、今年のWOCではミドルを走ることになりました。出場種目ミドルへの決定は、周りも驚いたと思いますが、自分も驚きました。決まった瞬間は正直、心の底から喜べないでいました。過去2年は、選考会で結果を出したわけではなく、推薦という形で救われて代表になったわけで、自分で勝ち取った代表の座という意識ではありませんでした。今回はスプリント選考会にて、自力で勝ち取った代表の座であった為、自信を持って臨めるそうだと思っていました。スプリントは成功、ミドルは失敗の選考レース結果で、失敗したミドルの代表に……。決定当日は何とも言い難い心境でありました。

しかし、結構適度な性格だからか、そんな思いは一日足らずで掻き消え、ミドルでしっかり結果を出すことだけに集中するようになりました。

予選まで、何をしたらろう？良く仕事をしたな～という印象しか残っていません。気持ちの面では、迫りくる大会のことを思い続けていましたが、仕事の方が多忙を極め、最後2週間はほぼ毎日終電であり調整どころではありませんでした。本当に自分は世界選手権を走るのか？とってしまった時もありましたが、レース前、最後の2日でゆっくり休んで体調を整えることだけを考え、前向きに過ごしていました。

現地入りしてからゆっくりと休んだ為、当日は体調が良く当日を迎えることができたのは言うまでもありません。さすがに緊張して体に力が入らない感じでありましたが、終止集中してレースに臨めました。不安なく自信を持って進み大きなミスで崩れることなく走れました。会場付近での応援が聞こえてからは必死で走った気がします。通過が確定した瞬間は、地元で結果を出せたことが

凄く嬉しく、何よりも、1年前の悪夢が払拭された瞬間で目頭が熱くなりました。

予選を通過して安心したのもありますが、決勝はより上の順位を意識して臨みました。結果としては、40位と奮わない順位でありましたが、昨年までの順位すら残らない状況を考えると今の時点では納得できる結果であった気がします。

今年は地元開催ということで、生活にストレスがなかったこと、地元の地の利がかなりあったこと、日本人の応援が凄かったことなど、選手にとってプラスの要素が数多くあったと思います。今年と同等かそれ以上の結果をこのプラスの要素がない中で発揮することが、来年以降の目標となってくるのではないかと思います。今後の進むべき道を再度確認して、また頑張っていければと思います。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい大会を開催・運営していただきました、実行委員の皆さん、関係各位に感謝すると共に、コーチやサポートとして支えて頂いた方々、一緒にトレーニングしてきた方々、選手として頑張ってくれた方々、そして、応援してくれた方々全てに、お礼を申し上げます。ありがとうございました。



ミドル決勝を走る紺野選手

3度目の挑戦にしてついに決勝の舞台を駆け抜けた。1桁ラップを数多く出すなど、世界レベルに引けをとらない走りであった。



世界一元気な応援団（写真上右、下）

地元の利として上げられるのが大応援団である。今回全ての選手が応援の力によって最後まで力を出す事が出来たと言っている。太鼓や学ランなど日本独自の応援スタイルは海外のメディアや選手からも注目の的となった。

世界選手権報告書



小泉 成行

はじめに、日本チームに多くのご声援をいただきありがとうございます。どの選手もが、応援に力を受け、最後まで力強く走ることができました。

私はスプリント種目に出場しました。結果は予選不通過でした。予選通過、決勝上位進出という目標を達成できず悔しく思います。

レース中は、突っ走ってしまいそうところで自分をコントロールし、いいレースができています、でもいつもより体が硬くて走れていないという感覚を持ちながら走っていました。1分前の有力選手に追いつき、全体的に荒れる展開になっていると思います、ミスをしなくてゴールすれば予選は大丈夫という気持ちで、最後まで諦めることなく、落ち着いて走ることができました。ゴール直後に時計を見て、さすがに時間がかかりすぎたのがっかりもしましたが、ベストは尽くせたと感じることができました。

しかし、少し時間が経って、改めてレースを振り返ってみると、雑にナビゲーションをしてしまいタイムロスをしていたところがたくさんあることがわかりました。また、体も硬く、過度の緊張状態にあったのではないかと考えています。そのことから、現在の課題である体力面だけではなく、技術面、精神面においても、まだまだ改善すべき点がたくさんあるように感じます。逆に言えば、まだまだ伸びしろがあるということでもあります。もっと早く走れる選手になれるようこれからも日々努力してまいります。

最後に、このような大きな舞台を用意していただいた、大会運営者、ボランティアの皆様には厚く御礼申し上げます。また、コーチ、スタッフ、ボランティアとして今回の大会に向けた選手強化にご協力いただいた多くの皆様にも感謝いたします。これからも日本のオリエンテーリングを盛り上げていきましょう！！



スプリント競技後の小泉選手

残念ながら力を出し尽くしたとは言いがたいが、この経験は以降の世界選手権で必ず生きてくるであろう。

世界選手権を終えて



田島 利佳

世界選手権に初出場してから10年が経ち、今回は幸運にもアジア初、日本での開催。そんな中
はミドル、スプリントに出場することになった。

ミドルでは決勝で20位以内を目標にやってきたが予選落ちした。とても残念だったが、ゴール
に向かうまでたくさんの声援を受けて走りきることができた。

スプリントは決勝進出を目標としていた。私はスプリントは得意で自信を持っている。予選では
少しミスをしたもののミドルとは打って変わって思い切りのいいレースができて、とても楽しく走
ることができた。決勝では準備不足が露呈され、世界で戦うことの厳しさを見せ付けられた。それ
でも集中していたしワクワクしながらやっている自分がいたし、いたるところで応援して下さる
方々から力をもらえた。

リレーは走らなかったが、チームとしてグッドパフォーマンスができた。目標とする6位入賞に
は届かなかったが、今後の目標として具体的な手ごたえを得たと思う。

世界でもっと互角に闘いたいとやってきたこの4年間は本当に多くの方からのサポートを得て
走り続けることができた。仲間たちを始め、チームをサポートして下さったスタッフ、たくさん
の方からの支援にとても感謝をしています。こんなにエキサイティングで充実した時間をすごせたの
はとても幸せに思います。オリエンテーリングがもっと好きになりました。そしてさらに強くな
る！

最後に、日本開催が決まってから長い間準備をし、大会を無事成功させた実行委員会の皆様、連
日暑い中運営を支えた役員の皆様、最良の地図を提供して下さったマッパーの方々、心から感謝
します。

日本チームはまだまだ強くなります。サポート、コーチング体制がより構築され、より元気のい
い若い選手たちが出てきて日本チームを引っ張っていくことになるでしょう。私は今まで支えてい
ただいた分を少しでもお返しできるようなことをしていきたいと考えています。

どうぞ今後ともご声援よろしくお願い致します。



ミドル決勝の落合志保子(左)、スプリント決勝進出を果たした田島選手(右)
最後の世界選手権挑戦でみごと予選通過を果たした落合選手と田島選手。決
勝では世界の厚い壁に阻まれたが、二人の最強の女子チームのけん引役とし
ての役割は大きかった。晴れやかな笑顔が印象に残る。

世界選手権を終えて



落合 志保子

今回の世界選手権は思い入れが強すぎて、簡単な報告となると何を書いていいのかなかなかまとまらなかった、やはり出場したミドルのことだけにしぼって書くべきなのだろう。日本の世界選手権では絶対に決勝を走ることが大前提で、自分だったら何の種目で決勝を走れるかと考えたときミドルしかなかった。過去の国際大会を見ても、ミドルタイプのオリエンテーリングのほうが結果を出していたし、ロングの予選は通ったとしても決勝を走だけの体力的な準備ができと思えなかったから。あとやはり私はミドルのような自分を常にコントロールしながら走るオリエンテーリングが好きなのだ。また、2003年スイスでミドルのトレインはとてもテクニカルだったのに、おいしいところは当然ながら決勝を走る人しか味合わせてもらえず、悔しい思いをしたし、2004年のスウェーデンでは、ミドルタイプのトレインにとってもフィットしていると感じていたけれど、結局セレで結果を出せず走れなかった事実もあり、ミドルの決勝を走るとするのは私の中でとても大きな目標と憧れになっていた。

予選の日、イメージトレーニングをしっかりとし、何をすべきかを自分に言い聞かせ、レースに臨んだ。後で「あのときもっと走れば通ったのに」とか「あそこでちゃんと地図を見ていれば」とか「コンパスに従わなかったから」とかという思いを抱かないような走りをしたかった。レース中はあまりスピードにのれず、慎重に行き過ぎていたけれど、同時スタートのデンマークの選手を中間付近で見たり、イギリスの選手と最後で一緒になったりしたので、もしかしたら大丈夫かもという気持ちはあった。なんとか14位で予選は通過。もちろんすごく嬉しかったけれど、通ってしまえばなんか当たり前のような気分になっていた。そんなものなのかもしれない。

決勝はミスをしていても良いからとにかく思い切りの良いオリエンテーリングをしたかった。そういうときの方が集中度がものすごく高く、走っていても苦しいとかよけいなことは一切考えず、言葉は悪いけれど頭の中が真っ白な状態になっている。ただ、今までもそういうオリエンテーリングを結果を出したい個人のレースで出来たことがなかった。「追い込んで。追い込んで」と言い聞かせるものの、スタート直後、一番までが難しく足がすくんでしまった。スタートダッシュが出来ないと私の場合、結局最後までだらだら行ってしまう。そのかわりミスはない。でも楽しくない。あんなにあこがれだったミドルのファイナルで私が一番大嫌いなオリエンテーリングをしてしまった。ショックだった。そして狙った大会でイメージした通りのオリエンテーリングが出来るまで続けたいと思ってしまったのでした。

終わった後、「お疲れさま。よく頑張ったね」という声をかけてもらえます。でも、私個人的に思うのは「選手は楽。自分がやりたいからやっているだけ。それよりも責任が伴ってくる運営者は本当に大変だった」と思います。フルタイムで仕事を持ちながら、自分のしたいことは後回しで、時間も健康も家族までも犠牲にしながら大きな大会を成功させた方達に尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。また応援団の皆さんも他人のためにあそこまで出来るとは感激でした。それから選手を支えてくださったコーチ陣を始めとして金銭的に援助してくださった方、地域クラブの皆様など多くの方達にお世話になりました。すべてボランティアなんですよ。選手は本当に幸せです。一言で片付けるのは申し訳ないのですが、それでも、本当にありがとうございました。選手をやめた後は、何らかの形で返していきたいと思っています。お世話になりました。

世界選手権を終えて



宮内 佐季子

結果：スプリント 42位・ロング 32位・リレー11位

スプリントは現在地ロストをした上に、気づいたら違う山にいたのでそこでレースが終わってしまっただけ。その危険性は考えていたけど、速いレースをしたかったので後悔はしていない。

ロングはコースを見た瞬間どこに消えていってもおかしくないな、と身の危険を感じ、トップのシモーネなどは別として大半の人も大きなロスの可能性があると考えた。レッグの数以上に私にとって危険な場所があった。慎重にオリエンテーリングを進めるしかなかった。それでもミスはしているけれど、多分今の私の実力でのベストレースだったように思う。悔しいけど。

リレーは集団で帰ってくるつもりだったが、2ポに向かう時に集団が中切れし、早くも取り残されてしまった。近くにイギリスのサラがいたのでまだまだ大丈夫、と言い聞かせて走ったが、サラの動きがおかしい。私の動きはサラ以上に怪しかった。結局リズムに乗れないまま帰ってきてしまった。ただ、帰ってきてみると前一分以内に5人のランナーがいる14番手、最低限ではあるけど役割は果たせた。というのがレース内容です。

この4年間目標にしてきた大会だったので私なりに一生懸命準備してきました。今回の地図は完全に信頼して不安なく走れました。2年前ぐらいから運営の方々が頑張っているのを見て励まされてきました。あまり身近でない人にも励ましていただきました。チームのスタッフや宿舎を運営・協力してくださった方も大勢います。トレーニングパートナーにもいっぱいいいじめてもらいました。チームもこの半年ぐらいで良いチームになりました。当日、会場でものすごい応援をしていただきました。そして満足はできないものの、実力通りの走りことができました。みなさん、ありがとうございました。



リレー競技過去最高順位（11位）をたたき出した宮内選手（左）番場選手（中央）元木選手（右）
 今大会の日本チームの勢いを象徴するのが、リレー競技における女子チームの活躍だった。スプリントとロングで決勝に残った宮内選手、ミドルで決勝に残り27位と言う前人未到（予選決勝方式が採用されてからの最上順位）の成績をぶち上げた番場選手、スキーOで鍛えた体力を遺憾なく発揮しロング決勝に残った元木選手は日本チーム女子選手が世界のトップ10になりうることを証明してくれた。

世界選手権に参加して



元木 友子

昨年はロング予選が1日目だった為、なにもわからないままスタートし気がついたらWOCが終わっていたという感じだったが、今回は2日目、しかも1日目のミドルと同じスタート待機所で、周りは顔見知りの方ばかり、山の雰囲気も普段通りで逆にWOCなのにもっと緊張した方が良いのではと思う位リラックスしてスタートできた。レース中は前日にミドルで通過していた人達が言っていた「普通のレースをすれば通る」という言葉を信じて走った。結果は12位で予選通過。1分ちょっとの間に9位～12位までの選手がひしめいていた事、決して会心のレースではなかった（特にロングレグのルートプランの甘さ）事が決勝への大きな期待と課題になった。また、今までの国際大会では一度もトップ比130%を切ったことがない自分が118%のタイムを出せた事にホームでのアドバンテージの大きさを強く感じた。

決勝は通い慣れた野外教育センターがスタートだった。自分ではあまり感じていなかったのだが、周りの話ではかなり緊張していたらしく、それがレースに反映されてしまったのか序盤と中盤のミドルレグで現在地ロスト、そして給水併設コントロールでのパンチスルーなど、明らかに集中力を欠いたレースだった。（一方で予選後の課題だったロングレグはリズム良くこなす事ができた。）技術的には予選も決勝も決して今までやってきた以上の事をやらなければいけないという事はなかった。ただ決勝に関してはメンタル面でのイメージが足りなかった。世界最高の舞台では体力、技術、メンタル、その全てが揃って初めて自分の力が試される、それを本当に痛感したレースだった。個人戦終了後、最終成績のつかなかったのは自分だけだったので半ば諦めかけていたリレーを走るチャンスが思いがけず与えられた。嬉しい反面、愛知WOCの最後を飾るリレーの3走を務める事への重大さが、個人戦で手酷い失敗をした直後の自分にはかなり重かった。ただ、同じく直前までリレーメンバーを目指していた落合さんに励まされた事でその不安は大分取り除かれた。当日までは自分にとって最もプレッシャーのかかる状況（入賞争いの中、集団で帰ってくる）でタッチを受け、ラスポから選手を抜いてくるイメージを頭の中で繰り返していた。実際スタート時は集団こそなかったが、ラス前からは何人かの選手と集団になり、結局最後は前の選手をつかまえることができずゴール。直後は6秒差ということで最後の競り合いに負けた事ばかりを悔やんでいたが、後でタイムを見ると他のレグで縮める事も十分可能なレースだった事がわかり、リレー特有のスピードと人の動きにのったトレーニングの不足を痛感した。

長い間の目標だったWOCが終わった時、自分は達成感や充実感で一杯になると思っていた。しかし実際終わってみると充実感というよりはむしろ明確で具体的な課題を新たにつきつけられたという気持ちの方が大きく、正直戸惑っている。ただ一方でそれは自分がまだ向上できるという事でもあると思うし、今回の反省を次のステップに活かしてこれからも競技を続けていきたいと思う。

最後になりましたが、大会期間中は沢山の方のサポートが自分にとっても日本チームにとっても大きな追い風になりました。また、こんなに選手、運営者、観戦者が一体となった大会は初めてで、感動しっぱなしの1週間でした。連日30度を超す中応援して下さった皆様、何年も前から準備をして下さった運営者やマッパーの方々、急遽ボランティアスタッフとして参加していただいたの方々、合宿運営などを通して選手強化をしていただいたスタッフの方々、本当にありがとうございました。

世界選手権を終えて

番場 洋子



地元開催の世界選手権、個人戦では最低限予選を通過する、リレーでは展開に遅れず集団について帰ってくることを目標に取り組んできました。本戦の結果は、ロング予選落ち、ミドル決勝 27位、そしてリレーでは 11位と目標をある程度達成できたと思っています。

ロングでは、完全に実力不足を感じました。2004年の結果からは技術・体力ともにまだ予選を通過するレベルにないことを痛感し、秋以降まず体力アップを基本に考えてきました。しかし、冬に肋骨を折るというハプニングがあったり、仕事とトレーニングの両立が難しかったりと思うように体力アップができず、去年のレベルに戻すことが春以降の目標になっていました。その結果がロング不通過という結果となったと思っています。やはり、ロングは走りたかったという思いが残ります。次の一年こそは確実にフィジカルを上げて、ロングの決勝で走りきれだけの体力を付けたいと思います。

ミドルは、実力以上の結果が出せたと思います。予選は、1分のミス为数箇所しながらも予選を通過することができました。例年「このミスがなければ…」という感想を持っていたのですが、今年は「こんなミスをして通るのか…」と思うほどのレースでした。基本の巡航速度が上がったのだと思います。これは合宿等の練習によるチームの成果だと思います。また、体力的なベースが上がれば更なる向上ができると思います。決勝では、緊張の中で、オリエンテーリングのみに集中し、レースを楽しむことができました。その結果の 27位は非常にうれしいです。決勝 20位という目標は決して夢ではない、と思えるようになりました。ただ、今年は主力級の選手がミドルを避けていたという事実もあり、今年のよいイメージを持って、来年も結果を残すことができたときに真の実績となると思っています。

リレーでは 2走を走りました。個人戦はいつもどおり走ることが求められ、リレーはリレーらしく人を使って集団の中で走ることが求められます。しかし、私は集団の中で走る、ということに苦手意識がありました。2走を言い渡されてから、どういう意識で走るべきか非常に悩みましたが、集団でいるということ意識するよりも、オリエンテーリングに集中したほうが速いはずだと思い、ナビゲーションに集中して走ろうと決めてスタートしました。結果的にはずっと周りに人がいて、その集団のペースから落ちないようにしながらも、自分でナビゲーションをしながら進むことができ、練習ではできなかったことができてしまった感じでした。愛知の山のおかげか、大会の力のおかげか、とにかく 120%の出来だったと思います。今回つかんだこの感触を今後にかしたいと思います。

最後に、すばらしい大会を用意して下さった運営者の方、莫大な範囲の地図を用意して下さったマッパーの方、応援をして下さった方、本当にありがとうございました。また、オフィシャル・トレーナー、一緒に戦ってきたチームメンバーの方も本当にお世話になりました。今後もさらに上を目指してがんばりますので、宜しくお願いします。

今後も日本代表選手団は頑張り続けます！！

ナショナルチーム情報はこちらで入手できます→ URL http://homepage2.nifty.com/o_compass/

2005 WOC 報告書



皆川 美紀子

WOC 初挑戦は、感動とたくさんの課題を残して幕を閉じました。私は、選手になることもさながら、WOC をこの目で観戦するのも初めてでした。だから、WOC の雰囲気も何も知らず、世界のレベルも想像がつかない状態でした。経験の少なさに不安もありましたが、初めてがゆえにチャレンジングに臨めるはずと思って、他の選手にひけをとらずに頑張りました。日本開催ということで、成績を残すこともとても大事なことであると思いましたが、私の性格から結果を求めると硬くなることはわかっていたので、今回は結果を残すことよりものびのびやって、自分の力を試すことを最も重視しました。また世界をみることで、他の選手の WOC への取り組みを学ぶことも課題でした。といっても、競技的目標は絶対必要なもので、予選通過→決勝で宮内さんに勝つという目標を立てました。世界との比較はまだ私にとってリアルに感じないので、実感を持って取り組むため日本人を目標にしました。

私は、選考会の結果スプリントのみ出場しました。レース当日は、緊張して、周りから見るとガチガチだったようですが、スタートに行くまでいつもと一緒にと念じて、落ち着きを取り戻し、予選では自分でも褒められるような良いレースが出来ました。しかし決勝は勝負レッグで3分ほどの大きなミスをしてしまい悔しい結果になりました。大きなミスをしてしまうのもまた自分の今の実力と思い、今後の反省につなげたいと思います。1日に2本のレースをしっかりと走りきることの難しさ、観戦者のプレッシャーと戦い落ちて自分のレースをやる難しさにまだ対応できていなかったのでしょうか。準備不足でした。ともあれ、予選の走りは自分の自信になったので、この良いイメージを得られたのは今回の WOC の大収穫です。

今回の WOC を経験して特に言いたいことが、2つあります。

1つは、運営者、これまでの合宿のサポートをしてくださったスタッフ、地域クラブの方、学生ボランティア、チームメンバー、友達や家族、本当に多くの人たちに支えられて 2005WOC が成り立ったのだということです。そのことに、深く感謝したいです。選手になることも大変なことですが、世界選手権を作り上げることや選手が競技に集中できる環境作りをすることもとても大変なことです。たくさんの人の力があって、この感動が生まれました。自分がこの中で、競技を出来た事を幸せに思います。ありがとうございました。

2つ目は、WOC で世界選手と戦う事の魅力を知り、そして決してその舞台は遠いものではないと感じた事です。まずは WOC に出たいと思い、出れると信じる事です。特に女子は男子より層が薄いので、本気になれば代表になって決勝を走ることもできるはずですが、私は特別センスがあるとも、獣級の体力があるとも思っていません。ただ、出来ると思ってやっていただけです。WOC に出たいと言う気持ちは負けないようにしていました。これから日本が強くなるためには、もっと互いに競い合える環境が必要です。それができる学生はいっぱいいると思います。もっと多くの人と一緒に WOC を目指したいです。そして来年も今年以上のチームを作っていきたいです。若者たちと一緒に頑張りましょう！！



日本代表選手団（選手とスタッフ）

世界選手権を戦い抜くためには、選手だけでなくスタッフの役割が非常に重要である。ここに写っている以外にも沢山のスタッフの献身的な活躍があった。何年も前から、この世界選手権に向けて選手やスタッフの熱意ある準備があったからこそ、この成功があったといっても過言ではない。



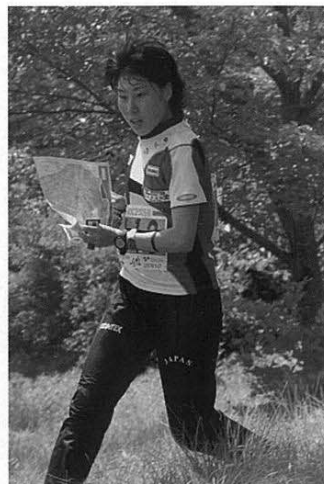
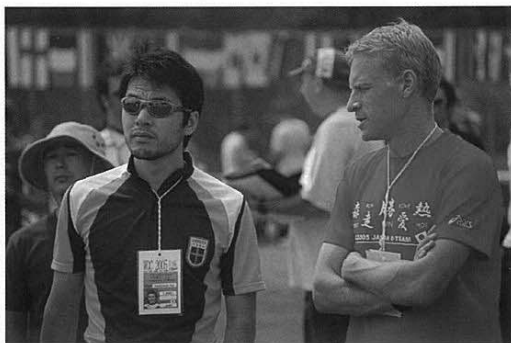
スプリント予選通過を果たした皆川選手（左）

初めての世界選手権挑戦にもかかわらず、見事予選を通過し決勝の舞台を力強く走り抜けた皆川選手彼女の活躍は、同じ世代の若い選手にとって大きな希望となりえる。今後世界戦を通して成長して行くであろう彼女と、同じ世代の若者の活躍に期待がかかる。



外国人コーチ ヤリ・イカヘイモネン（右）

2004年から正式に日本チームのコーチとして就任。世界に通用するためのスピードあるオリエンテーリングを身につけさせるために尽力してくれた。時に厳しく、時には先頭に立ってユーモアを振りまく姿勢に信頼を大きくした選手は少なくない。



大会スナップ ☺



2. 大会公式成績

Middle Distance Qualification Men-A – Results 8/7

(普沼 3.8km 登距離 230m 15controls)

1	Anders Nordberg	0:28:07	Norway
2	Chris Terkelsen	0:28:11	Denmark
3	Kalle Dalin	0:29:11	Sweden
4	Matthias Müller	0:29:29	Switzerland
5	Klaus Schgaguler	0:30:52	Italy
6	Petteri Muukkonen	0:31:06	Finland
7	Olle Kärner	0:31:07	Estonia
8	Karl Dravitski	0:31:08	New Zealand
9	Marius Mazulis	0:31:28	Lithuania
10	Lukas Bartak	0:31:34	Slovakia
11	Rob Walter	0:31:57	Australia
12	Ewan McCarthy	0:31:58	Great Britain
13	Francois Gonon	0:32:02	France
14	Jan Zazgornik	0:32:04	Austria
15	Tomáš Dlabaja	0:32:07	Czech Republic

(以上 15名 予選通過)

16	Martins Sirmais	0:32:13	Latvia
17	Christian Teich	0:33:30	Germany
18	Ivaylo Kamenarov	0:33:57	Bulgaria
19	Dmitry Tsvetkov	0:34:16	Russia
20	鹿島田 浩二	0:34:42	日本
21	Mike Smith	0:35:28	Canada
22	Boris Granovski	0:36:31	United State
23	Kyong Sa Ri	0:36:45	DPR Korea
24	Pedro Pasi3n	0:38:30	Spain
25	Guilong Li	0:44:47	China
26	Vedran Bijelić	0:45:45	Croatia
27	Chun Kit Tang	0:52:30	Hong Kong
	Ming-Yen Wu	1:11:43	Chinese Taipei
	Jung Jong-Kun	1:16:09	Korea

Middle Distance Qualification Men-B – Results 8/7

(普沼 3.8km 登距離 230m 15controls)

1	Thierry Gueorgiou	0:26:28	France
2	Jarkko Huovila	0:27:52	Finland
3	Daniel Hubmann	0:27:58	Switzerland
4	Roman Ryapolov	0:29:24	Russia
5	Øystein Kristiansen	0:29:42	Norway
6	Ingo Horst	0:29:44	Germany
7	David Andersson	0:30:09	Sweden
8	Michal Horáček	0:30:52	Czech Republic
9	Kiril Nikolov	0:30:57	Bulgaria
10	Mikkel Lund	0:31:57	Denmark
11	Oskars Zernis	0:32:13	Latvia
12	Marian Davidik	0:32:19	Slovakia
13	Oliver Johnson	0:32:25	Great Britain
14	Julian Dent	0:32:26	Australia
15	高橋 善徳	0:32:46	日本
	(以上 15名 予選通過)		
16	Felix Breitschädel	0:33:12	Austria
17	Yuri Omeltchenko	0:33:45	Ukraine
18	Svajūnas Ambrazas	0:34:29	Lithuania
19	Carlo Rigoni	0:35:34	Italy
20	Javier Gomez	0:36:04	Spain
21	Wil Smith	0:39:56	Canada
22	Jamie Stewart	0:40:38	New Zealand
23	Andreas Kraas	0:40:40	Estonia
24	Qiangqiang Shi	0:43:22	China
25	Siu Tung Hui	0:45:01	Hong Kong
26	Emil Hecico	0:47:02	Romania
27	Sergey Velichko	0:49:33	United State
28	Moon Joung-Man	1:03:03	Korea
	Lino Legac	DISQ	Croatia

Middle Distance Qualification Men-C – Results 8/7

(普沼 3.8km 登距離 225m 15controls)

1	Damien Renard	0:28:52	France
2	Gernot Kerschbaumer	0:29:47	Austria
3	Jørgen Rostrup	0:29:57	Norway
4	Simonas Krepsta	0:30:04	Lithuania
5	Mats Troeng	0:30:15	Sweden
6	Troels Nielsen	0:30:54	Denmark
7	Nicolas Girsch	0:31:24	France
8	Janusz Porzycz	0:31:51	Poland
9	Matthias Merz	0:32:02	Switzerland
10	Michele Tavernaro	0:32:19	Italy
11	Marco Povia	0:32:21	Portugal
11	紺野 俊介	0:32:21	日本
13	Ondrej Pijak	0:32:30	Slovakia
14	David Shepherd	0:33:28	Australia
15	Darren Ashmore	0:34:01	New Zealand
	(以上 15名 予選通過)		
16	Kim Fagerudd	0:34:17	Finland
17	Kristaps Jaudzems	0:35:44	Latvia
18	Nick Duca	0:37:15	Canada
19	Alexander Minakov	0:38:39	Russia
20	Nikolay Dimitrov	0:38:52	Bulgaria
21	Marek Nomm	0:39:29	Estonia
22	Axel Fischer	0:40:42	Germany
23	Dan Stoll-Hadayia	0:44:09	United State
24	Jianfei Ouyang	0:45:13	China
25	Edi Ocvirk	0:48:35	Croatia
26	Chi Ming Chung	0:51:07	Hong Kong
27	Kim Kyung-Seok	1:09:19	Korea
	Graham Gristwood	DISQ	Great Britain

Middle Distance Qualification Women-A – Results 8/7

(菅沼 3.4km 登距離 200m 14controls)

1	Martina Fritschy	0:28:16	Switzerland
2	Riina Kuuselo	0:30:19	Finland
3	Sandy Hott Johansen	0:30:53	Canada
4	Hanna Palm	0:31:16	Sweden
5	Marianne Andersen	0:31:29	Norway
6	Tania Robinson	0:31:58	New Zealand
7	Anne Konring Olesen	0:32:18	Denmark
8	Martina Dockalova	0:32:33	Czech Republic
9	Zsuzsa Fey	0:32:43	Romania
10	Vilma Rudzenskaite	0:33:20	Lithuania
11	Natalia Korzhova	0:33:29	Russia
12	Céline Dodin	0:33:50	France
13	Tracy Bluett	0:34:24	Australia
14	Aija Skrastina	0:34:31	Latvia
15	Erin Olafsen	0:36:00	United State
	(以上 15 名 予選通過)		
16	Annabel Valledor	0:36:02	Spain
17	Lyudmila Gotseva	0:37:30	Bulgaria
18	Gunda Fischer	0:38:50	Germany
19	Monika Depta	0:40:02	Poland
20	田島 利佳	0:40:57	日本
21	Fei Li	0:43:39	China
22	Maureen Olsson-lo	0:44:01	Hong Kong
23	Agnes Simon	0:44:15	Hungary
	Heo Sun-Ok	1:36:40	Korea

Middle Distance Qualification Women-B – Results 8/7

(菅沼 3.4km 登距離 200m 13controls)

1	Simone Niggli	0:25:45	Switzerland
2	Jenny Johansson	0:28:04	Sweden
3	Inga Dambe	0:29:07	Latvia
4	Helene Hausner	0:30:43	Denmark
5	Eva Jurenikova	0:31:04	Czech Republic
6	Tatiana Ryabkina	0:31:12	Russia
7	Elisa Dresen	0:31:44	Germany
8	Helen Winskill	0:31:46	Great Britain
9	Bernadett Kelemen	0:32:19	Hungary
10	Antoniya Grigorova	0:32:26	Bulgaria
11	Hanny Allston	0:32:32	Australia
12	Marianne Riddervold	0:33:26	Norway
13	Anni-Maija Fincke	0:33:47	Finland
14	落合 志保子	0:34:52	日本
15	Esther Gil	0:35:01	Spain
	(以上 15名 予選通過)		
16	Samantha Saeger	0:36:33	United State
17	Cindy Becu	0:36:37	France
18	Diana Vosyliute	0:36:56	Lithuania
19	Philippa McNeil	0:38:16	Canada
20	Claire Paterson	0:39:01	New Zealand
21	Lieke Van Opstal	0:47:19	Netherlands
22	Ana Hecico	0:50:55	Romania
23	Yanxia Qin	0:52:39	China
24	Pik Kwan Tang	0:54:02	Hong Kong
	Choi Hyang-Ok	DISQ	Korea

Middle Distance Qualification Women-C – Results 8/7

(菅沼 3.4km 登距離 190m 13controls)

1	Minna Kauppi	0:27:22	Finland
2	Lea Müller	0:28:52	Switzerland
3	Iliana Shandurkova	0:29:22	Bulgaria
4	Juliette Soulard	0:29:47	France
5	Ieva Sargautyte	0:30:25	Lithuania
6	Anna Mårsell	0:31:05	Sweden
7	Irina Mikhalko	0:31:33	Russia
8	Éva Makrai	0:31:51	Hungary
9	Vendula Klechova	0:32:41	Czech Republic
10	Signe Søes	0:33:24	Denmark
11	Mingyue Zhu	0:33:29	China
12	番場 洋子	0:33:58	日本
13	Natasha Key	0:34:18	Australia
14	Mhairi Mackenzie	0:34:51	Great Britain
15	Anke Xylander	0:34:56	Germany
	(以上 15名 予選通過)		
16	Anne Margrethe Hausken	0:35:03	Norway
17	Kirti Rebane	0:36:52	Estonia
18	Rebecca Smith	0:37:08	New Zealand
19	Pavlina Brautigam	0:37:12	United State
20	Pam James	0:37:16	Canada
21	Iveta Bruvere	0:38:08	Latvia
22	Val Duca	0:48:22	Romania
23	Yuen Ki Hilda Cheng	0:50:37	Hong Kong
	Park Mi-Kyung	1:20:31	Korea

Long Distance Qualification Men-A – Results 8/8

(普沼・守義 7.8km 登距離 510m 16controls)

1	Marc Lauenstein	0:59:32	Switzerland
2	Emil Wingstedt	1:00:25	Sweden
3	Jamie Stevenson	1:00:49	Great Britain
4	Thierry Gueorgiou	1:01:30	France
5	Troels Nielsen	1:02:22	Denmark
6	Holger Hott Johansen	1:03:00	Norway
7	Jörgen Wickholm	1:03:46	Finland
8	Klaus Schgaguler	1:04:00	Italy
9	Michal Jedlička	1:04:22	Czech Republic
10	Grant Bluett	1:04:26	Australia
11	Kiril Nikolov	1:04:54	Bulgaria
12	Roman Efimov	1:06:59	Russia
13	Marco Povo	1:07:22	Portugal
14	Guntars Smitins	1:07:49	Latvia
15	Ondrej Pijak	1:08:52	Slovakia

(以上 15名 予選通過)

16	松澤 俊行	1:12:31	日本
17	Christian Teich	1:14:40	Germany
18	Neil Kerrison	1:15:13	New Zealand
19	Tobias Breitschädel	1:15:28	Austria
20	Brent Lanqbakk	1:16:28	Canada
21	Pedro Pasi3n	1:16:59	Spain
22	Emil Hecico	1:20:04	Romania
23	Sergey Velichko	1:22:29	United State
24	Rain Eensaar	1:22:38	Estonia
25	Qiangqiang Shi	1:32:54	China
26	Vedran Bijelić	1:52:39	Croatia
27	Siu Tung Hui	1:55:54	Hong Kong
	Kim Kyung-Seok	DISQ	Korea

Long Distance Qualification Men-B – Results 8/8

(普沼・守義 7.8km 登距離 510m 16controls)

1	Andrey Khramov	1:03:21	Russia
2	Marius Mazulis	1:03:27	Lithuania
3	David Schneider	1:05:09	Switzerland
4	Michal Horáček	1:05:39	Czech Republic
5	Olle Kärner	1:06:07	Estonia
6	Lars Skjeset	1:06:13	Norway
7	Mats Haldin	1:06:15	Finland
8	Ingo Horst	1:07:02	Germany
9	Lukas Bartak	1:07:04	Slovakia
10	Oliver Johnson	1:07:11	Great Britain
11	Niclas Jonasson	1:08:04	Sweden
12	Carlo Rigoni	1:08:07	Italy
13	Nikolay Dimitrov	1:09:46	Bulgaria
14	Thomas Krejci	1:10:12	Austria
15	Troy de Haas	1:10:40	Australia
	(以上 15 名 予選通過)		
16	Javier Gomez	1:10:50	Spain
17	Carsten Jørgensen	1:10:53	Denmark
18	Martins Sirmais	1:12:21	Latvia
19	Jean-Michel Parzych	1:16:25	France
20	Jon Torrance	1:18:59	Canada
21	篠原 岳夫	1:21:03	日本
22	Ri Kyong Sa	1:23:30	DPR Korea
23	Dan Stoll-Hadayia	1:30:26	United State
24	Brent Edwards	1:31:27	New Zealand
25	Edi Ocvirk	1:35:22	Croatia
26	Chi Ming Chung	1:41:59	Hong Kong
	Lee Hyun-Dong	2:45:13	Korea
	Naigang Zhang	DISQ	China

Long Distance Qualification Men-C – Results 8/8

(菅沼・守義 7.9km 登距離 510m 17controls)

1	Jani Lakanen	1:02:33	Finland
2	Michele Tavernaro	1:03:10	Italy
3	Francois Gonon	1:03:33	France
4	Benno Schuler	1:03:59	Switzerland
5	Chris Forne	1:06:18	New Zealand
6	Mattias Karlsson	1:06:19	Sweden
7	Jon Duncan	1:07:02	Great Britain
8	Marian Davidik	1:08:12	Slovakia
9	Petr Losman	1:08:33	Czech Republic
10	Janusz Porzycz	1:09:16	Poland
11	Øystein Kvaal Østerbø	1:10:25	Norway
12	Oskars Zernis	1:11:37	Latvia
13	Dmitry Tsvetkov	1:12:03	Russia
14	David Shepherd	1:12:27	Australia
15	Claus Bloch	1:14:16	Denmark
	(以上 15 名 予選通過)		
16	高橋 善徳	1:14:30	日本
17	Ivaylo Kamenarov	1:14:52	Bulgaria
18	Axel Fischer	1:15:17	Germany
19	Tarvo Avaste	1:15:23	Estonia
20	Guilong Li	1:17:41	China
21	Lino Legac	1:19:42	Croatia
22	Nick Duca	1:20:33	Canada
23	Eric Bone	1:24:25	United State
24	Yu Ming Lee	1:43:57	Hong Kong
25	Ryu Byung-Gu	2:02:05	Korea
	Svajūnas Ambrazas	DISQ	Lithuania

Long Distance Qualification Women-A – Results 8/8

(普沼・守義 5.2km 登距離 330m 14controls)

1	Marianne Andersen	0:51:24	Norway
2	Yulia Novikova	0:52:27	Russia
3	Eva Jurenikova	0:52:37	Czech Republic
4	Minna Kauppi	0:52:48	Finland
5	Sarah Rollins	0:53:17	Great Britain
6	Inga Dambe	0:53:30	Latvia
7	Jo Allison	0:53:37	Australia
8	Karolina A-Höjsgaard	0:54:11	Sweden
9	Veronica Minoiu	0:59:26	Romania
10	Annabel Valledor	0:59:29	Spain
11	Brigitte Grüniger	1:00:43	Switzerland
12	元木 友子	1:00:47	日本
13	Rebecca Smith	1:01:04	New Zealand
14	Kirti Rebane	1:01:33	Estonia
15	Antoniya Grigorova	1:05:42	Bulgaria
	(以上 15名 予選通過)		
16	Sandra Zurcher	1:06:45	United State
17	Agnes Simon	1:08:58	Hungary
18	Pik Kwan Tang	1:29:10	Hong Kong
19	Charlotte MacNaughton	1:32:16	Canada
20	Fei Li	1:33:17	China
	Park Mi-Kyung	DISQ	Korea

Long Distance Qualification Women-B – Results 8/8

(普沼・守義 5.2km 登距離 330m 12controls)

1	Simone Niggli	0:47:07	Switzerland
2	Paula Haapakoski	0:49:10	Finland
3	Tatiana Ryabkina	0:51:30	Russia
4	Emma Engstrand	0:51:39	Sweden
5	Lene Moe	0:51:43	Norway
6	Heather Monro	0:53:11	Great Britain
7	Rachael Smith	0:55:35	New Zealand
8	Esther Gil	0:55:47	Spain
9	Anna Mårsell	0:56:50	Sweden
10	Helene Hausner	0:57:32	Denmark
11	Ieva Sargautyte	0:57:36	Lithuania
12	Gunda Fischer	0:59:02	Germany
13	Céline Dodin	0:59:10	France
14	Marta Štěrbová	0:59:59	Czech Republic
15	Lyudmila Gotseva	1:02:23	Bulgaria
	(以上 15 名 予選通過)		
16	番場 洋子	1:02:54	日本
17	Iveta Bruvere	1:05:14	Latvia
17	Louise Oram	1:05:14	Canada
19	Erin Olafsen	1:05:25	United State
20	Allison Jones	1:05:38	Australia
21	Ana Hecico	1:11:38	Romania
22	Nga Yi Rosanna Wan	1:19:58	Hong Kong
	Wei Dai	2:07:53	China
	Heo Sun-Ok	DISQ	Korea

Long Distance Qualification Women-C – Results 8/8

(普沼・守義 5.2km 登距離 330m 13controls)

1	Vroni König Salmi	0:48:24	Switzerland
2	Heli Jukkola	0:49:36	Finland
3	Hanny Allston	0:50:41	Australia
4	Zsuzsa Fey	0:51:49	Romania
5	Jenny Johansson	0:51:56	Sweden
6	Dana Brozkova	0:53:42	Czech Republic
7	Anne Konring Olesen	0:53:53	Denmark
8	Juliette Soulard	0:55:15	France
9	Monika Depta	0:55:51	Poland
10	Birte Riddervold	0:56:38	Norway
10	Iliana Shandurkova	0:56:38	Bulgaria
12	Olga Belozerova	0:57:06	Russia
13	Bernadett Kelemen	1:00:39	Hungary
14	宮内 佐季子	1:00:42	日本
15	Diana Vosyliute	1:02:43	Lithuania
	(以上 15名 予選通過)		
16	Samantha Saeger	1:03:00	United State
17	Anke Xylander	1:04:37	Germany
18	Pam James	1:04:38	Canada
19	Aija Skrastina	1:04:57	Latvia
20	Penny Kane	1:05:09	New Zealand
21	Mingyue Zhu	1:08:16	China
22	Helen Bridle	1:08:19	Great Britain
23	Maureen Olsson-lo	1:10:32	Hong Kong
24	Lieke Van Opstal	1:21:42	Netherlands
	Choi Hyang-Ok	2:10:57	Korea

Sprint Qualification Men-A – Results 8/10

(昭和の森 2.1km 登距離 150m 10controls)

1	Emil Wingstedt	0:15:52	Sweden
2	Marc Lauenstein	0:16:24	Switzerland
2	Gernot Kerschbaumer	0:16:24	Austria
4	Mårten Boström	0:16:31	Finland
5	Øystein Kvaal Østerbø	0:16:39	Norway
6	Darren Ashmore	0:16:42	New Zealand
7	Andrey Khramov	0:16:47	Russia
8	Matthew Speake	0:16:48	Great Britain
9	Martins Sirmais	0:16:51	Latvia
10	Janusz Porzycz	0:17:03	Poland
11	Axel Fischer	0:17:07	Germany
12	Damien Renard	0:17:08	France
13	Ondrej Pijak	0:17:25	Slovakia
14	Nikolay Dimitrov	0:17:33	Bulgaria
15	山口 大助	0:18:06	日本
	(以上 15名 予選通過)		
16	Yuri Omeltchenko	0:18:26	Ukraine
17	Marco Povo	0:18:43	Portugal
18	Siu Tung Hui	0:19:46	Hong Kong
19	Mati Tiit	0:20:12	Estonia
20	David Brickhill-Jones	0:20:54	Australia
21	Tomáš Dlabaja	0:20:56	Czech Republic
22	Jon Torrance	0:21:14	Canada
23	Carlo Rigoni	0:22:33	Italy
24	Edi Ocvirk	0:22:50	Croatia
25	Hongfa Zeng	0:23:06	China
26	Sergey Velichko	0:23:08	United State
27	Claus Bloch	0:23:29	Denmark
28	Moon Jung-Man	0:28:43	Korea
29	Ming-Yen Wu	0:48:06	Chinese Taipei

Sprint Qualification Men-B – Results 8/10

(昭和の森 2.1km 登距離 150m 10controls)

1	Matthias Merz	0:15:51	Switzerland
2	Mats Haldin	0:15:59	Finland
3	Jamie Stevenson	0:16:16	Great Britain
4	Jean-Michel Parzych	0:16:23	France
5	Lukas Bartak	0:16:39	Slovakia
6	Roman Ryapolov	0:16:40	Russia
7	Håkan Eriksson	0:16:42	Sweden
8	Troy de Haas	0:16:43	Australia
9	Chris Forne	0:16:51	New Zealand
10	Klaus Schgaguler	0:17:00	Italy
11	Andreas Kraas	0:17:12	Estonia
12	Mikkel Lund	0:17:41	Denmark
12	Kristaps Jaudzems	0:17:41	Latvia
14	Felix Breitschädel	0:17:55	Austria
15	Svajūnas Ambrazas	0:18:52	Lithuania
15	Pedro Pasi3n	0:18:52	Spain
	(以上 16名 予選通過)		
17	Ivaylo Kamenarov	0:18:57	Bulgaria
18	小泉 成行	0:19:17	日本
18	Christian Teich	0:19:17	Germany
20	Boris Granovskiy	0:19:22	United State
21	Tore Sandvik	0:19:38	Norway
22	Guilong Li	0:19:41	China
23	Ri Kyong Sa	0:19:55	DPR Korea
24	Wil Smith	0:20:17	Canada
25	Vedran Bijelić	0:20:21	Croatia
26	Emil Hecico	0:21:54	Romania
27	Chun Kit Tang	0:25:00	Hong Kong
28	Ryu Byung-Gu	0:47:16	Korea

Sprint Qualification Men-C – Results 8/10

(昭和の森 2.0km 登距離 150m 10controls)

1	Chris Terkelsen	0:14:57	Denmark
2	Jani Lakanen	0:15:20	Finland
3	Niclas Jonasson	0:15:23	Sweden
4	Marian Davidik	0:15:25	Slovakia
5	Ingo Horst	0:15:36	Germany
6	Simonas Krepsta	0:15:41	Lithuania
7	Roman Efimov	0:15:48	Russia
8	Mattias Karlsson	0:16:00	Sweden
9	Nicolas Girsch	0:16:02	France
10	Holger Hott Johansen	0:16:08	Norway
11	Grant Bluett	0:16:14	Australia
12	Daniel Hubmann	0:16:19	Switzerland
13	Thomas Krejci	0:16:28	Austria
14	Ewan McCarthy	0:16:43	Great Britain
14	Petr Losman	0:16:43	Czech Republic
	(以上 15名 予選通過)		
16	松澤 俊行	0:17:13	日本
17	Mike Smith	0:17:52	Canada
18	Kiril Nikolov	0:18:26	Bulgaria
19	Lino Legac	0:18:59	Croatia
20	Eric Bone	0:19:04	United State
21	Jamie Stewart	0:19:27	New Zealand
22	Guntars Smitins	0:19:50	Latvia
23	Marek Nomm	0:20:51	Estonia
24	Javier Gomez	0:21:47	Spain
25	Yu Ming Lee	0:22:04	Hong Kong
26	Jianfei Ouyang	0:24:39	China
27	Jung Jong-Kun	0:36:22	Korea

Sprint Qualification Women-A – Results 8/10

(昭和の森 1.8km 登距離 120m 10controls)

1	Heli Jukkola	0:16:35	Finland
2	Karolina A-Höjsgaard	0:17:04	Sweden
3	Ieva Sargautyte	0:17:15	Lithuania
4	Dana Brozkova	0:17:25	Czech Republic
5	Lene Moe	0:17:37	Norway
5	Brigitte Grüniger	0:17:37	Switzerland
7	Anne Konring Olesen	0:18:05	Denmark
8	Iliana Shandurkova	0:18:30	Bulgaria
9	Inga Dambe	0:18:34	Latvia
10	宮内 佐季子	0:19:07	日本
11	Yulia Novikova	0:19:32	Russia
12	Elisa Dresen	0:19:47	Germany
12	Kirti Rebane	0:19:47	Estonia
14	Annabel Valledor	0:20:06	Spain
15	Agnes Simon	0:20:08	Hungary
	(以上 15名 予選通過)		
16	Samantha Saeger	0:20:19	United State
17	Pam James	0:20:40	Canada
18	Allison Jones	0:21:05	Australia
19	Claire Paterson	0:21:35	New Zealand
20	Helen Bridle	0:21:44	Great Britain
21	Mingyue Zhu	0:22:08	China
22	Lieke Van Opstal	0:27:58	Netherlands
23	Val Duca	0:28:17	Romania
24	Yuen Ki Hilda Cheng	0:34:56	Hong Kong
	Choi Hyang-Ok	0:53:49	Korea

Sprint Qualification Women-B – Results 8/10

(昭和の森 1.8km 登距離 120m 10controls)

1	Simone Niggli	0:14:54	Switzerland
2	Céline Dodin	0:16:58	France
3	Olga Belozerova	0:17:07	Russia
4	Paula Haapakoski	0:17:19	Finland
5	Zsuzsa Fey	0:17:59	Romania
6	Signe Søes	0:18:01	Denmark
7	Lea Müller	0:18:05	Switzerland
8	Heather Monro	0:18:11	Great Britain
9	Birte Riddervold	0:18:17	Norway
10	Éva Makrai	0:18:22	Hungary
11	Rachael Smith	0:19:04	New Zealand
12	Natasha Key	0:19:30	Australia
13	Antoniya Grigorova	0:19:57	Bulgaria
14	田島 利佳	0:20:02	日本
15	Martina Dockalova	0:20:08	Czech Republic
	(以上 15名 予選通過)		
16	Lena Eliasson	0:21:23	Sweden
17	Pavlina Brautigam	0:21:53	United State
18	Diana Vosyliute	0:22:01	Lithuania
19	Gunda Fischer	0:22:22	Germany
20	Philippa McNeil	0:24:34	Canada
21	Iveta Bruvere	0:24:52	Latvia
21	Ji Li	0:24:52	China
23	Maureen Olsson-lo	0:27:17	Hong Kong
24	Park Mi-Kyung	0:45:05	Korea

Sprint Qualification Women-C – Results 8/10

(昭和の森 1.8km 登距離 120m 10controls)

1	Vroni König Salmi	0:15:27	Switzerland
2	Anne Margrethe Hausken	0:16:25	Norway
3	Tania Robinson	0:16:37	New Zealand
4	Emma Engstrand	0:16:52	Sweden
5	Satu Vesalainen	0:17:00	Finland
6	Aija Skrastina	0:17:13	Latvia
7	Jo Allison	0:17:36	Australia
8	Sarah Rollins	0:17:40	Great Britain
9	Vendula Klechova	0:17:53	Czech Republic
10	皆川 美紀子	0:18:08	日本
11	Monika Depta	0:18:23	Poland
12	Vilma Rudzenskaite	0:18:50	Lithuania
13	Natalia Korzhova	0:19:07	Russia
14	Helene Hausner	0:19:33	Denmark
15	Bernadett Kelemen	0:19:37	Hungary
	(以上 15名 予選通過)		
16	Anke Xylander	0:19:43	Germany
17	Lyudmila Gotseva	0:20:10	Bulgaria
18	Veronica Minoiu	0:21:35	Romania
19	Cindy Becu	0:23:38	France
20	Nga Yi Rosanna Wan	0:24:05	Hong Kong
21	Yanxia Qin	0:30:39	China
	Heo Sun-Ok	1:08:05	Korea
	Marie-Catherine Bruno	DISQ	Canada
	Sandra Zurcher	DISQ	United State

Sprint Men Final – Results 8/10

(昭和の森 2.4km 登距離 160m 14controls)

1	Emil Wingstedt	0:14:31.0	Sweden
2	Daniel Hubmann	0:14:41.5	Switzerland
3	Jani Lakanen	0:14:45.7	Finland
4	Øystein Kvaal Østerbø	0:14:47.1	Norway
5	Andrey Khramov	0:14:49.2	Russia
6	Martins Sirmais	0:15:01.0	Latvia
7	Troy de Haas	0:15:02.4	Australia
8	Simonas Krepsta	0:15:02.5	Lithuania
9	Marian Davidik	0:15:10.0	Slovakia
10	Petr Losman	0:15:11.8	Czech Republic
11	Niclas Jonasson	0:15:18.9	Sweden
12	Chris Terkelsen	0:15:22.9	Denmark
13	Matthias Merz	0:15:25.4	Switzerland
14	Jamie Stevenson	0:15:31.9	Great Britain
15	Marc Lauenstein	0:15:34.4	Switzerland
16	Ewan McCarthy	0:15:44.5	Great Britain
17	Gernot Kerschbaumer	0:15:45.0	Austria
18	Håkan Eriksson	0:15:55.6	Sweden
19	Jean-Michel Parzych	0:16:03.9	France
20	Mattias Karlsson	0:16:06.0	Sweden
21	Janusz Porzycz	0:16:13.2	Poland
22	Mikkel Lund	0:16:18.5	Denmark
23	Holger Hott Johansen	0:16:19.0	Norway
24	Roman Ryapolov	0:16:24.7	Russia
25	Svajūnas Ambrazas	0:16:31.7	Lithuania
26	Roman Efimov	0:16:32.4	Russia
27	Chris Forne	0:16:40.0	New Zealand
28	Grant Bluett	0:16:41.6	Australia
29	Thomas Krejci	0:16:45.7	Austria
30	Lukas Bartak	0:16:46.1	Slovakia
31	Mats Haldin	0:16:49.5	Finland
32	Axel Fischer	0:16:54.1	Germany
33	Nikolay Dimitrov	0:16:55.3	Bulgaria
34	Kristaps Jaudzems	0:16:57.3	Latvia
35	Darren Ashmore	0:17:02.8	New Zealand
36	Klaus Schgaguler	0:17:09.7	Italy
37	Andreas Kraas	0:17:10.7	Estonia
38	Felix Breitschädel	0:17:17.3	Austria
39	Ondrej Pijak	0:17:25.9	Slovakia
40	Ingo Horst	0:17:26.8	Germany
41	Matthew Speake	0:17:31.2	Great Britain
42	山口 大助	0:18:27.9	日本
43	Pedro Pasi3n	0:19:33.1	Spain
44	Mårten Bostr3m	0:21:06.6	Finland
	Nicolas Girsch	DISQ	France
	Damien Renard	DISQ	France

Sprint Women Final – Results 8/10

(昭和の森 2.0km 登距離 130m 12controls)

1	Simone Niggli	0:14:02.7	Switzerland
2	Anne Margrethe Hausken	0:14:34.4	Norway
3	Heather Monro	0:15:01.7	Great Britain
4	Emma Engstrand	0:15:03.1	Sweden
5	Vroni König Salmi	0:15:09.5	Switzerland
6	Dana Brozkova	0:15:28.3	Czech Republic
7	Karolina A-Höjsgaard	0:15:31.0	Sweden
8	Paula Haapakoski	0:15:32.4	Finland
9	Satu Vesalainen	0:15:40.8	Finland
10	Birte Riddervold	0:15:41.8	Norway
11	Yulia Novikova	0:15:42.0	Russia
12	Heli Jukkola	0:15:49.7	Finland
13	Lene Moe	0:16:13.2	Norway
14	Monika Depta	0:16:28.1	Poland
15	Sarah Rollins	0:16:28.5	Great Britain
16	Aija Skrastina	0:16:35.2	Latvia
17	Inga Dambe	0:16:46.5	Latvia
18	Ieva Sargautyte	0:16:47.5	Lithuania
19	Zsuzsa Fey	0:16:50.1	Romania
20	Iliana Shandurkova	0:16:51.5	Bulgaria
21	Natalia Korzhova	0:16:54.3	Russia
22	Céline Dodin	0:16:58.4	France
23	Lea Müller	0:17:00.1	Switzerland
24	Tania Robinson	0:17:01.5	New Zealand
25	Vilma Rudzenskaite	0:17:01.6	Lithuania
26	Martina Dockalova	0:17:19.6	Czech Republic
27	Vendula Klechova	0:17:28.6	Czech Republic
28	Jo Allison	0:17:31.9	Australia
29	Signe Søres	0:17:34.4	Denmark
30	Brigitte Grüniger	0:17:35.6	Switzerland
31	Helene Hausner	0:17:55.1	Denmark
32	Natasha Key	0:18:03.3	Australia
33	Elisa Dresen	0:18:06.9	Germany
34	Éva Makrai	0:18:07.6	Hungary
35	Anne Konring Olesen	0:18:09.2	Denmark
36	Rachael Smith	0:18:10.1	New Zealand
37	Kirti Rebane	0:18:36.7	Estonia
38	Bernadett Kelemen	0:18:48.2	Hungary
39	Antoniya Grigorova	0:19:17.5	Bulgaria
40	Olga Belozeroва	0:19:25.7	Russia
41	Annabel Valledor	0:20:04.1	Spain
42	宮内 佐季子	0:20:19.5	Japan
43	Agnes Simon	0:20:24.6	Hungary
44	皆川 美紀子	0:22:38.4	Japan
45	田島 利佳	0:22:47.6	Japan

Middle Distance Men Final – Results 8/11

(三河高原牧場 5.0km 登距離 310m 13controls)

1	Thierry Gueorgiou	0:33:00.3	France
2	Chris Terkelsen	0:34:32.0	Denmark
3	Jarkko Huovila	0:34:49.3	Finland
4	David Andersson	0:34:54.3	Sweden
5	Øystein Kristiansen	0:35:31.2	Norway
6	Jørgen Rostrup	0:35:38.9	Norway
7	Simonas Krepsta	0:36:03.8	Lithuania
8	Petteri Muukkonen	0:36:32.1	Finland
9	Gernot Kerschbaumer	0:36:43.8	Austria
10	Mats Troeng	0:36:47.9	Sweden
11	Marian Davidik	0:37:08.9	Slovakia
12	Damien Renard	0:37:15.1	France
13	Matthias Müller	0:37:19.5	Switzerland
14	Anders Nordberg	0:37:29.5	Norway
15	Michal Horáček	0:37:38.6	Czech Republic
16	François Gonon	0:37:40.2	France
17	Matthias Merz	0:37:41.9	Switzerland
18	Marius Mazulis	0:37:48.6	Lithuania
19	Klaus Schgaguler	0:38:01.5	Italy
20	Oliver Johnson	0:38:07.1	Great Britain
21	Kiril Nikolov	0:38:17.1	Bulgaria
22	Julian Dent	0:39:17.0	Australia
23	Tomáš Dlabaja	0:39:20.2	Czech Republic
24	Michele Tavernaro	0:39:27.5	Italy
25	David Shepherd	0:39:54.4	Australia
26	Janusz Porzycz	0:39:59.7	Poland
27	Ewan McCarthy	0:40:12.0	Great Britain
28	Lukas Bartak	0:40:15.6	Slovakia
29	Daniel Hubmann	0:40:24.8	Switzerland
30	Mikkel Lund	0:41:06.0	Denmark
31	Karl Dravitski	0:41:12.2	New Zealand
32	Rob Walter	0:41:40.8	Australia
33	Jan Zazgornik	0:41:42.0	Austria
34	Darren Ashmore	0:42:06.3	New Zealand
35	Roman Ryapolov	0:42:12.1	Russia
36	Oskars Zernis	0:42:26.6	Latvia
37	Nicolas Girsch	0:44:08.1	France
38	Troels Nielsen	0:44:23.0	Denmark
39	高橋 善徳	0:44:24.3	日本
40	紺野 俊介	0:44:54.5	日本
41	Marco Povoia	0:48:57.7	Portugal
42	Ondrej Pijak	0:50:09.1	Slovakia
	Kalle Dalin	DISQ	Sweden

Middle Distance Women Final – Results 8/11

(三河高原牧場 4.1km 登距離 275m 13controls)

1	Simone Niggli	0:32:46.3	Switzerland
2	Jenny Johansson	0:34:59.7	Sweden
3	Minna Kauppi	0:35:50.0	Finland
4	Anna Mårsell	0:35:58.3	Sweden
5	Anni-Majja Fincke	0:37:03.5	Finland
6	Tatiana Ryabkina	0:37:49.7	Russia
7	Lea Müller	0:37:55.3	Switzerland
8	Zsuzsa Fey	0:38:07.8	Romania
9	Sandy Hott Johansen	0:38:18.5	Canada
10	Martina Fritschy	0:38:21.8	Switzerland
11	Ieva Sargautyte	0:38:49.6	Lithuania
12	Hanna Palm	0:39:12.5	Sweden
13	Tracy Bluett	0:39:23.8	Australia
14	Eva Jurenikova	0:39:38.7	Czech Republic
15	Marianne Andersen	0:39:40.4	Norway
16	Tania Robinson	0:39:41.4	New Zealand
17	Riina Kuuselo	0:39:53.5	Finland
18	Hanny Allston	0:39:54.0	Australia
19	Inga Dambe	0:40:08.7	Latvia
20	Helen Winskill	0:40:32.8	Great Britain
21	Signe Søes	0:40:44.3	Denmark
22	Iliana Shandurkova	0:41:20.1	Bulgaria
23	Marianne Riddervold	0:41:28.0	Norway
24	Irina Mikhalko	0:42:09.8	Russia
25	Martina Dockalova	0:42:32.6	Czech Republic
26	Helene Hausner	0:42:44.9	Denmark
27	番場 洋子	0:42:58.4	日本
28	Céline Dodin	0:43:14.4	France
29	Esther Gil	0:43:28.9	Spain
30	Antoniya Grigorova	0:44:02.3	Bulgaria
31	Bernadett Kelemen	0:44:19.2	Hungary
32	Vilma Rudzenskaite	0:44:45.3	Lithuania
33	Juliette Soulard	0:44:48.0	France
34	Elisa Dresen	0:44:54.4	Germany
35	Natasha Key	0:45:07.3	Australia
36	Natalia Korzhova	0:45:23.6	Russia
37	Aija Skrastina	0:45:53.3	Latvia
38	Mingyue Zhu	0:46:04.8	China
39	Vendula Klechova	0:46:32.5	Czech Republic
40	Éva Makrai	0:47:01.0	Hungary
41	Mhairi Mackenzie	0:47:17.6	Great Britain
42	落合 志保子	0:47:59.2	日本
43	Erin Olapsen	0:52:40.6	United State
	Anne Konring Olesen	DISQ	Denmark

Long Distance Men Final – Results 8/12

(巴山 12.9km 登距離 925m 29controls)

1	Andrey Khramov	1:37:22	Russia
2	Marc Lauenstein	1:39:30	Switzerland
3	Holger Hott Johansen	1:42:09	Norway
4	David Schneider	1:42:42	Switzerland
5	Mats Haldin	1:43:09	Finland
6	Michele Tavernaro	1:43:20	Italy
7	Thierry Gueorgiou	1:44:02	France
8	Mattias Karlsson	1:44:17	Sweden
9	Niclas Jonasson	1:45:05	Sweden
10	Jörgen Wickholm	1:46:13	Finland
11	Marius Mazulis	1:46:18	Lithuania
12	François Gonon	1:46:19	France
13	Lukas Bartak	1:46:22	Slovakia
14	Benno Schuler	1:47:15	Switzerland
15	Kiril Nikolov	1:47:19	Bulgaria
16	Olle Kärner	1:47:52	Estonia
17	Lars Skjeset	1:48:49	Norway
18	Jani Lakanen	1:49:04	Finland
19	Ingo Horst	1:49:40	Germany
20	Jon Duncan	1:50:39	Great Britain
21	Oliver Johnson	1:51:12	Great Britain
22	Michal Jedlička	1:52:13	Czech Republic
23	Troels Nielsen	1:53:13	Denmark
24	Roman Efimov	1:53:59	Russia
25	Marian Davidik	1:54:29	Slovakia
26	Øystein Kvaal Østerbø	1:55:17	Norway
27	Jamie Stevenson	1:55:44	Great Britain
28	Chris Forne	1:56:08	New Zealand
29	Michal Horáček	1:56:47	Czech Republic
30	Carlo Rigoni	1:58:28	Italy
31	Marco Povoia	2:02:09	Portugal
32	Emil Wingstedt	2:02:39	Sweden
33	Nikolay Dimitrov	2:06:38	Bulgaria
34	Petr Losman	2:07:33	Czech Republic
35	Guntars Smitins	2:11:01	Latvia
36	Oskars Zernis	2:11:59	Latvia
37	Thomas Krejci	2:17:59	Austria
38	Claus Bloch	2:28:50	Denmark
	Dmitry Tsvetkov	DISQ	Russia
	Grant Bluett	DISQ	Australia
	David Shepherd	DISQ	Australia
	Ondrej Pijak	DISQ	Slovakia
	Troy de Haas	DISQ	Australia

Long Distance Women Final – Results 8/12

(巴山 8.8km 登距離 630m 21controls)

1	Simone Niggli	1:13:23	Switzerland
2	Heli Jukkola	1:15:35	Finland
3	Vroni König Salmi	1:17:49	Switzerland
4	Marianne Andersen	1:19:48	Norway
5	Paula Haapakoski	1:21:57	Finland
6	Hanny Allston	1:23:31	Australia
7	Emma Engstrand	1:24:43	Sweden
8	Tatiana Ryabkina	1:26:03	Russia
9	Yulia Novikova	1:26:05	Russia
10	Dana Brozkova	1:27:45	Czech Republic
11	Lene Moe	1:28:12	Norway
12	Birte Riddervold	1:28:33	Norway
13	Eva Jurenikova	1:29:00	Czech Republic
14	Zsuzsa Fey	1:29:19	Romania
15	Olga Belozerova	1:29:58	Russia
16	Heather Monro	1:29:59	Great Britain
17	Anne Konring Olesen	1:31:02	Denmark
18	Sarah Rollins	1:31:50	Great Britain
19	Jenny Johansson	1:31:52	Sweden
20	Anna Mårzell	1:35:58	Sweden
21	Rachael Smith	1:36:02	New Zealand
22	Brigitte Grüniger	1:37:52	Switzerland
23	Monika Depta	1:38:24	Poland
24	Inga Dambe	1:38:49	Latvia
25	Juliette Soulard	1:40:00	France
26	Karolina A-Höjsgaard	1:40:06	Sweden
27	Ieva Sargautyte	1:40:22	Lithuania
28	Jo Allison	1:40:30	Australia
29	Esther Gil	1:42:01	Spain
30	Gunda Fischer	1:42:28	Germany
31	Iliana Shandurkova	1:45:17	Bulgaria
32	宮内 佐季子	1:45:47	日本
33	Kirti Rebane	1:46:26	Estonia
34	Annabel Valledor	1:46:57	Spain
35	Veronica Minoiu	1:50:03	Romania
36	Marta Štěrbová	1:51:38	Czech Republic
37	Rebecca Smith	1:52:15	New Zealand
38	Céline Dodin	1:52:30	France
39	Diana Vosyliute	1:52:49	Lithuania
	Minna Kauppi	DISQ	Finland
	元木 友子	DISQ	日本
	Antoniya Grigorova	DISQ	Bulgaria

Relay Men – Results 8/14

(作手高原 6.5-6.6km 登距離 435-450m 18-19controls, leg3:登距離 455-470m 17-18controls)

1	Norway	Holger Hott Johansen			Øystein Kristiansen			Jørgen Rostrup		
	2:16:48	M31	0:45:21	1	M62	0:48:17	1	M18	0:43:09	1
	(1)		0:45:21	1		1:33:38	4		2:16:47	1
2	France	Francois Gonon			Damien Renard			Thierry Gueorgiou		
	2:17:16	M32	0:45:26	1	M63	0:48:05	1	M16	0:43:44	1
	(7)		0:45:26	3		1:33:31	3		2:17:15	2
3	Switzerland	Matthias Merz			Marc Lauenstein			Daniel Hubmann		
	2:17:48	M56	0:46:20	1	M37	0:46:25	1	M18	0:45:02	2
	(9)		0:46:20	5		1:32:45	1		2:17:48	3
4	Sweden	Niclas Jonasson			Mats Troeng			Emil Wingstedt		
	2:17:57	M58	0:45:37	1	M36	0:48:43	1	M17	0:43:35	1
	(3)		0:45:37	4		1:34:20	5		2:17:56	4
5	Finland	Jarkko Huovila			Mats Haldin			Petteri Muukkonen		
	2:21:50	M42	0:45:22	1	M58	0:47:29	2	M11	0:48:57	1
	(4)		0:45:22	2		1:32:51	2		2:21:49	5
6	Lithuania	Svajūnas Ambrazas			Marius Mazulis			Simonas Krepsta		
	2:23:02	M38	0:50:14	1	M66	0:47:57	1	M7	0:44:50	1
	(6)		0:50:14	12		1:38:11	8		2:23:02	6
7	Slovakia	Ondrej Pijak			Lukas Bartak			Marian Davidik		
	2:23:24	M33	0:47:26	1	M61	0:49:17	1	M17	0:46:40	2
	(13)		0:47:26	7		1:36:43	6		2:23:24	7
8	Denmark	Mikkel Lund			Carsten Jørgensen			Chris Terkelsen		
	2:24:08	M36	0:50:21	2	M67	0:48:36	1	M8	0:45:11	1
	(12)		0:50:21	13		1:38:57	10		2:24:08	8
9	Czech Republic	Michal Horáček			Michal Jedlička			Petr Losman		
	2:27:52	M67	0:50:21	2	M33	0:47:56	2	M11	0:49:34	2
	(11)		0:50:21	13		1:38:17	9		2:27:52	9
10	Great Britain	Matthew Speake			Oliver Johnson			Jon Duncan		
	2:28:48	M66	0:55:06	3	M32	0:47:33	2	M13	0:46:08	1
	(5)		0:55:06	20		1:42:39	14		2:28:47	10
11	Estonia	Andreas Kraas			Marek Nomm			Olle Kärner		
	2:31:17	M68	0:50:31	1	M31	0:51:44	2	M12	0:49:02	1
	(17)		0:50:31	15		1:42:15	12		2:31:17	11
12	Russia	Roman Efimov			Roman Ryapolov			Andrey Khramov		
	2:31:34	M62	0:50:07	2	M43	0:51:19	1	M6	0:50:08	2
	(2)		0:50:07	11		1:41:26	11		2:31:34	12
13	Germany	Ingo Horst			Christian Teich			Axel Fischer		
	2:32:02	M57	0:46:31	1	M38	0:50:59	2	M16	0:54:31	2
	(15)		0:46:31	6		1:37:30	7		2:32:01	13

2005年世界オリエンテーリング選手権大会 日本代表選手団 報告書

14	Italy	Klaus Schgaguler			Carlo Rigoni			Michele Tavernaro		
	2:33:28	M37	0:49:54	2	M68	0:54:01	2	M6	0:49:32	1
	(18)		0:49:54	10		1:43:55	15		2:33:27	14
15	Australia	David Brickhill-Jones			Troy de Haas			Grant Bluett		
	2:34:42	M43	0:54:35	2	M56	0:50:20	2	M12	0:49:47	2
	(10)		0:54:35	18		1:44:55	16		2:34:42	15
16	Austria	Felix Breitschädel			Gernot Kerschbaumer			Jan Zazgornik		
	2:37:30	M61	0:54:13	2	M42	0:52:34	2	M8	0:50:42	2
	(14)		0:54:13	16		1:46:47	17		2:37:30	16
17	日本	山口 大助			高橋 善徳			松澤 俊行		
	2:40:40	M58	0:47:42	3	M42	0:54:45	3	M11	0:58:12	3
	(21)		0:47:42	8		1:42:27	13		2:40:40	17
18	New Zealand	Karl Dravitski			Darren Ashmore			Chris Forne		
	2:41:23	M66	0:54:24	2	M38	0:55:33	3	M7	0:51:25	2
	(23)		0:54:24	17		1:49:57	19		2:41:23	18
19	Bulgaria	Kiril Nikolov			Ivaylo Kamenarov			Nikolay Dimitrov		
	2:43:22	M41	0:49:51	1	M57	0:57:01	2	M13	0:56:29	2
	(16)		0:49:51	9		1:46:52	18		2:43:22	19
20	Latvia	Kristaps Jaudzems			Martins Sirmais			Oskars Zernis		
	2:47:32	M63	0:54:53	2	M41	0:57:50	2	M7	0:54:48	3
	(8)		0:54:53	19		1:52:43	20		2:47:32	20
21	Spain	Javier Gomez			Pedro Pasión			Esther Gil		
	3:03:25	M42	0:57:24	4	M61	1:02:24	3	M8	1:03:36	3
	(22)		0:57:24	22		1:59:48	21		3:03:24	21
22	United State	Eric Bone			Boris Granovskiy			Dan Stoll-Hadavia		
	3:18:11	M62	0:57:11	3	M31	1:04:07	4	M18	1:16:52	3
	(20)		0:57:11	21		2:01:18	22		3:18:10	22
23	China	Guilong Li			Qiangqiang Shi			Jianfei Ouyang		
	3:21:54	M32	0:59:31	3	M66	1:08:49	4	M13	1:13:34	3
	(25)		0:59:31	23		2:08:20	24		3:21:54	23
24	Hong Kong	Siu Tung Hui			Chi Ming Chung			Yu Ming Lee		
	3:24:25	M43	1:04:21	3	M62	1:11:50	4	M6	1:08:13	3
	(28)		1:04:21	25		2:16:11	25		3:24:25	24
25	Croatia	Lino Legac			Edi Ocvirk			Vedran Bijelić		
	3:29:47	M56	1:08:36	3	M43	1:09:12	4	M12	1:11:58	3
	(27)		1:08:36	26		2:17:48	26		3:29:46	25
Canada		Mike Smith			Nick Duca			Brent Langbakk		
	DISQ	M31	1:03:31	3	M68	1:02:30	3	M12	DISQ	
	(19)		1:03:31	24		2:06:01	23			
Korea		Jung Jong-Kun			Lee Hyun-Dong			Ryu Byung-Gu		
	DISQ	M67	DISQ		M36	DNS		M8	DNS	
	(29)									

Relay Women – Results 8/14

(作手高原 4.9-5.1km 登距離 330-345m 15-17controls, leg3:登距離 330-340m 15-17controls)

1	Switzerland	Lea Müller			Vroni König Salmi			Simone Niggli		
	2:07:46	W82	0:45:08	1	W38	0:42:55	2	W51	0:39:42	1
	(54)		0:45:08	5		1:28:03	4		2:07:45	1
2	Norway	Marianne Andersen			Marianne Riddervold			Anne Margrethe Hausken		
	2:09:28	W38	0:41:31	1	W56	0:45:24	2	W77	0:42:33	1
	(53)		0:41:31	1		1:26:55	2		2:09:28	2
3	Sweden	Jenny Johansson			Karolina A-Höisgaard			Emma Engstrand		
	2:10:35	W31	0:41:42	1	W62	0:43:59	1	W78	0:44:53	1
	(51)		0:41:42	2		1:25:41	1		2:10:35	3
4	Finland	Paula Haapakoski			Heli Jukkola			Minna Kauppi		
	2:11:42	W62	0:45:22	2	W83	0:42:16	1	W26	0:44:03	1
	(52)		0:45:22	7		1:27:38	3		2:11:42	4
5	Czech Republic	Marta Štěrbová			Eva Jurenikova			Dana Brozkova		
	2:12:27	W63	0:45:04	1	W81	0:44:22	1	W27	0:43:00	1
	(58)		0:45:04	4		1:29:26	6		2:12:27	5
6	Russia	Yulia Novikova			Olga Belozerova			Tatiana Ryabkina		
	2:17:17	W86	0:44:57	1	W32	0:43:22	1	W53	0:48:57	1
	(55)		0:44:57	3		1:28:19	5		2:17:17	6
7	Great Britain	Sarah Rollins			Helen Winskill			Heather Monro		
	2:20:22	W58	0:50:47	3	W86	0:46:19	2	W27	0:43:15	2
	(56)		0:50:47	15		1:37:06	10		2:20:21	7
8	Australia	Jo Allison			Tracy Bluett			Hanny Allston		
	2:21:11	W56	0:45:20	1	W87	0:44:57	1	W28	0:50:54	1
	(62)		0:45:20	6		1:30:17	7		2:21:11	8
9	New Zealand	Tania Robinson			Penny Kane			Rachael Smith		
	2:26:07	W86	0:47:19	3	W58	0:50:35	2	W27	0:48:12	3
	(73)		0:47:19	9		1:37:54	12		2:26:06	9
10	Denmark	Anne Konring Olesen			Helene Hausner			Signe Søes		
	2:33:16	W32	0:45:32	2	W63	0:56:35	2	W76	0:51:07	1
	(57)		0:45:32	8		1:42:07	14		2:33:15	10
11	日本	宮内 佐季子			番場 洋子			元木 友子		
	2:33:22	W81	0:49:07	2	W37	0:48:03	1	W53	0:56:11	2
	(66)		0:49:07	14		1:37:10	11		2:33:22	11
12	France	Céline Dodin			Juliette Soulard			Cindv Becu		
	2:33:34	W33	0:48:16	1	W61	0:47:48	1	W77	0:57:29	2
	(63)		0:48:16	12		1:36:04	8		2:33:33	12
13	Lithuania	Diana Vosvliute			Vilma Rudzenskaite			Ieva Sargautvte		
	2:33:58	W87	0:55:27	2	W33	0:50:38	2	W51	0:47:52	2
	(61)		0:55:27	20		1:46:05	15		2:33:58	13

14	Bulgaria	Antoniva Grigorova			Lvudmila Gotseva			Iliana Shandurkova		
	2:44:40	W31	0:54:21	2	W88	1:04:47	2	W52	0:45:31	1
	(69)		0:54:21	18		1:59:08	20		2:44:40	14
15	Latvia	Inga Dambe			Aija Skrastina			Iveta Bruvere		
	2:44:57	W83	0:48:53	2	W36	0:51:06	2	W52	1:04:56	2
	(60)		0:48:53	13		1:39:59	13		2:44:56	15
16	Canada	Sandy Hott Johansen			Pam James			Louise Oram		
	2:46:38	W61	0:53:11	2	W82	0:59:46	2	W28	0:53:40	2
	(64)		0:53:11	17		1:52:57	17		2:46:38	16
17	Romania	Veronica Minoiu			Zsuzsa Fev			Val Duca		
	2:52:05	W58	0:48:09	1	W37	0:48:29	2	W76	1:15:26	3
	(74)		0:48:09	10		1:36:38	9		2:52:05	17
18	United State	Erin Olafsen			Sandra Zurcher			Pavlina Brautigam		
	2:53:48	W37	0:55:38	3	W58	0:59:32	4	W76	0:58:37	2
	(65)		0:55:38	21		1:55:10	19		2:53:48	18
19	Hungary	Éva Makrai			Bernadett Kelemen			Agnes Simon		
	2:53:58	W32	0:52:35	3	W86	1:02:30	4	W53	0:58:52	3
	(75)		0:52:35	16		1:55:05	18		2:53:58	19
20	Hong Kong	Maureen Olsson-lo			Yuen Ki Hilda Cheng			Nga Yi Rosanna Wan		
	3:34:59	W38	0:59:30	3	W82	1:26:05	3	W51	1:09:24	3
	(71)		0:59:30	22		2:25:35	22		3:34:59	20
21	China	Mingvue Zhu			Fei Li			Wei Dai		
	3:54:20	W88	0:55:11	1	W31	1:28:31	3	W52	1:30:38	3
	(67)		0:55:11	19		2:23:42	21		3:54:20	21
	Germany	Elisa Dresen			Gunda Fischer			Anke Xvlander		
	DISQ	W36	0:48:15	1	W57	1:00:06	1	W78	DNS	
	(59)		0:48:15	11		1:48:21	16			
	Korea	Heo Sun-Ok			Choi Hvang-Ok			Park Mi-Kvung		
	DISQ	W82	DISQ		W61	DISQ		W28	DNS	
	(72)									

3. 選手強化基金

寄付をいただいた方々（五十音順，敬称略）

団体等

入間市オリエンテーリングクラブ	WOC2005 実行委員会
オリエンテーリングクラブ サン・スーシ	千葉オリエンテーリングクラブ
オリエンテーリングクラブ みちの会	東京都オリエンテーリング協会
春日部オリエンテーリングクラブ	鳳来町観光協会
群馬県オリエンテーリング協会	山口県オリエンテーリング協会
埼玉県オリエンテーリング協会	横浜市水道局戸塚営業所
齋藤和助税理士事務所	株式会社リテラメッド
有限会社ジェネシスマッピング	LASBIM
JO（ジャーナルオブオリエンティア）	有限会社ワイティブロダクツ
静岡県オリエンテーリング協会	03年年末合宿参加者（注）
WOC スコードジャパン	

個人

石井龍男	加藤一郎	高橋正樹，淑子	藤生考志
磯谷忠彦	香取伸嘉	高野由紀	船橋昭一
稲葉英雄	金子しのぶ	武田徳幸	丸山哲史
上野山禎造	木村治雄	橋 直隆	松尾繁樹
植松裕子	小城昌弘	土屋晴彦	松澤紘一郎
宇野明子	小林二郎	寺島一樹	宮川達哉
江田美晴	小林岳人	土井 聡	武藤拓王
大久保裕介	小林正子	利光良平	村越 真
大滝民己	小林璃衣紗	富田吉郎，暢子	村山 勉，七重
大塚校市	齋藤宏顕，積子	長友武司，美子	森田智彦
奥山影得	齋藤和助	中山 勝	柳澤 創
大野光敏，由美子	酒井克明，か代子	野島茂樹	山本真司
尾上秀雄	佐藤政明	長谷川恵子	山本六三，知美
小野寺はるみ	清水伸好	平島勝彦	横澤夕香
小比賀健司	鈴木英一	広江淳良	四俣 徹
鹿島田秀夫，章子	関口道広	福原正三	

（注）03年年末合宿参加者に対して JOA から支出された補助金を，参加者の同意を得て（参加者から通常通りに実費を徴収して）基金に入金したものです。

下記の団体より，ナショナルチームの活動に多大な支援を頂きました。ここに感謝の意を表します。

アメア スポーツ ジャパン株式会社 スント事業部

学校法人 岩倉学園

4. 付録（刊行物）

① サポーターズニュース（Vol.1～Vol.6）

世界選手権期間中にサポーターによって発行されていた刊行物。毎日の日本人選手の活躍を伝えていた。選手やスタッフに直接取材をし、時には夜を徹しての編集作業により作成された。

② Gambare！（Vol.1）

Orienteering Today という海外のオリエンテーリングマガジンの記者が日本での世界選手権での様子を伝えた刊行物。レースがあった日の翌日に発行されていた。第1号ではミドルディスタンス予選に出場した高橋善徳選手が表紙を飾り、日本人選手の活躍を伝えていた。



2005年世界オリエンテーリング選手権
日本代表チーム報告書

発行：(社)日本オリエンテーリング協会
強化委員会・WOC2005日本代表チーム
発行日：2005年9月30日

